

情報・視聴覚教育研究部

紀要

研究のまとめ 26集

# 一年のあゆみ

教育メディアと共に開く豊かな学びを求めて

平成24年度

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚教育研究部会

# 1 年 の あ ゆ み

横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育研究会  
会長 岩崎 良之

平成24年度は「ICTを利用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ」という研究主題のもと、会員研究、公開授業、夏季特別研修会、研究大会等さまざまな研究・研修実践が行われ、大きな成果を上げることができました。会員研究については、今年度から、教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザインを追求する「授業デザイン部会」と、情報機器の日常的な活用と円滑な運用を追求する「スキルアップ部会」の二部会を設けて研究を進めてまいりました。ここに、1年間のあゆみ、記録がまとまりましたので、お届けいたします。

「教師は授業で勝負する」と言われるように、教師の本分は授業であり、この授業時間こそ、子どもや教師にとっても最も大切な時間です。そのためには、教師の授業に対しての深い教材研究と授業力の向上が必要です。国語教師・大村はま先生の著書「教えるということ」には、教師の在り方が随所に記されていますが、その一つに“「研究」をしない先生は「先生」ではないと思います。研究ということは「伸びたい」という気持ちがたくさんあって、それが燃えないとできないことです。”と述べられています。

本研究会には、教育に対して熱い情熱と使命感をもち、子ども理解を基に教科の指導力、ICT活用指導力等、教師としての専門性を身に付けるために常に学び続ける教師、弛みない実践と研究を通して「魅力ある授業・分かる授業づくり」へ挑戦し、自分たちで磨き合おうとする向上心のある教師が集まっています。

会員研究に参加された方の中には、本校にはICTを活用した授業はパソコンに堪能な教師がするものという思いこみや、ICTを活用しなくても十分によい授業ができると考えている教師がいる中で、研究会や研修会で学んだことを紹介することで、ICTに苦手意識を持つベテラン層の方もICTの活用を身近なものと感じてくれたようです。そして、「なるほど、このように活用すればいいのか。」と、ICT機器のスキルアップとともに、次第に授業が変わり、子どもたちが変わってきたことを嬉しそうに話してくださる方もいました。本研究会の研究・研修活動が、日々のICT活用を促進するものとなっていることを感じました。

最後になりましたが、1年間の本研究会のために、ご支援・ご指導をいただきました教育委員会事務局指導企画課の皆様、そして、ご多用の中、原稿をまとめていただいた皆様、紀要編集委員会の皆様に心よりお礼申し上げます。

# も く じ

はじめに	1
もくじ	2
I 研究概要	3
II 会員研究	
1 授業デザイン部会	13
2 スキルアップ部会	17
III 合同会員研修・講演会	18
IV 横浜市情報・視聴覚研究会24年度夏季研修会	21
V 神奈川県放送教育・視聴覚教育合同夏季特研修会	22
VI 公開授業研究会	23
VII 神奈川県小学校教育研究会中央大会横浜大会	27
VIII 教育研究大会第二次大会	29
IX 各区の研究活動	32
X 会報「メディアワールド」	50
XI 会員名簿	60
XII あとがき	65

## 研究概要

### 1. 研究主題

# 「教育メディアと共に開く豊かな学びを求めて」

### 2. 主題設定の理由

本研究会の研究主題は「教育メディアと共に開く豊かな学びを求めて」とした。

このことは、「教育メディア」というものが、単に利用するということから、目的を持ち、使用する意図を考えた上で、使用されるときに、それが初めて活用されたということになり、そこから様々な学びが生まれてくるのであり、ただ単にメディア情報機器を使った授業をすとか、メディア情報機器を使うための授業になってはならないと考えているからである。

また、「豊かな学び」とは、どういうものであるかということ、それは、まさしく情報が、どういう意図を持って、自分に伝わってきて（受信）、それをどのように理解し（整理）、相手にどのように伝えるか（発信）ということをしつかりと理解することが大切であるということから、始まるのである。「誰から何を学ぶか」ということが、いつも受け身であったのに比べ、これからは、「何を、どのように理解し、自らの責任において発信していけるか」ということが問われてくる時代になってくる。いわば、双方向の情報のやりとりの中で、学びの多様性が求められてくる。そして、そのことは、多くの情報の中から、その真偽を確認し、それが及ぼす影響もよく考え、それを扱う態度も要求されるということである。学び方の多様性、学ぶ内容の多様性、真偽が入り交じった情報の中から、本当に有益なものは何か、本当の真実は何かということを見極め、情報社会に参画する態度が大切になってきていると言わねばならない。

つまり、単にパソコンができるとか、インターネットができるではなく、それを扱う場合、どのような考えを持てば良いのか、その向こう側にいる顔は見えない他人に、どう接していけばよいのかを、よく考えて取り組むことが大切になってくるのである。

どのような情報も、何もないところからは、生まれてはこないものであり、情報を発信する人には感謝と尊敬を込めて接し、なおかつその情報がいかなるものかということをしつかりと真偽を確かめ、責任ある発信をしていくことが、これからは、ますます重要になっていくと考えられる。

また、「豊かな学びを求めて」ということは、それらの「情報」をどうとらえるかだけでなく、それらの「情報」を活用することにより、より深く広い理解をすることができるようになることを意図している。つまりそのことを通して、自分も相手も共に学習し、理解し、成長していくことが期待されているのである。

教育メディアを上手に活用することによって、その学習が個人としての自分だけでなく相手も、そ

して周りも共に学び、成長できるようになっていくと思われる。その意味で、豊かな学びということ  
を広くとらえて、成長の一つの過程を共有するものと考えていきたい。

そして、そのようになるためには、どのような実践や研究が有効なのかということも含めて、研究  
活動をしていきたいし、より情報への見方や利用方法についての理解を深め、実際に研究活動として  
も、より役立つ研究成果の提案や活動を展開していきたい。

したがって、これらのような理由から「教育メディアと共に開く豊かな学びを求めて」ということ  
を研究主題に設定し、本研究会の研究活動を展開していきたいと考えている。

## 2. 研究の目的

横浜版学習指導要領の総合的な学習の時間の中に「自ら学び、自ら考え、主体的に判断することと  
は、課題に対して一人ひとりが主体的に探求的な学習活動を繰り返し、自問自答しながら答えを探し  
求め、判断していくことです。そのためには、問題の解決に向けて見通しや計画を立て、繰り返し体  
験的に問題解決を図ったり、多様な情報を収集し、整理・分析して考えながらまとめたりするなど、  
学び方やものの考え方をしっかり身につけていけるよう、ていねいに指導することが必要です。」と  
ある。

そして、第2章の重点的課題に「総合的な学習の時間」の担う役割のなかには、(5)として「情  
報社会を生き抜く能力の育成」の中において「様々な情報ツールを正しいモラルのもとで活用し、自  
ら情報の内容を見極め、責任をもって収集・選択・発信・管理しながら情報社会を主体的に生き抜い  
ていくために必要な能力を育成します。」とある。

さらには、「総合的な学習の時間を核とする「横浜の時間」において、探求の過程で情報を収集・  
整理・発信したり、情報が日常生活や社会に与える影響を考えたりするなどの学習活動を行い、情報  
を適切に処理・管理し活用する資質や能力及び態度を育成します。」とある。

本研究会では、これらのことを踏まえて、情報・視聴覚教育活動を通しての指導や支援を行い児童  
の豊かな学びを具現化していきたいと考えている。

児童の「学習活動」と言っても、教科学習のほかにもクラブ活動、委員会活動、学年や学校の行事  
などの多くの児童が活動する場がある。また、それを支える先生方にとっても、それを指導支援す  
るためにどのようにすればよいかと迷うこともあるかもしれない。

そのような中において、よりよい学習活動・児童活動がなされるためには、情報・視聴覚機器が果  
たす役割は大きいと思われる。そのためには、どのような機器をどのように活用したら効果的な学習  
が展開されるのか、そのための方法や取り扱いについて考えて研究を行ってきた。

しかしながら、今までの研究ではその内容や領域をすべて網羅したとは言いがたく、なおたくさん  
の課題や新しい学習への提案等があるように思われた。

そこで本年度は、今までの研究をもう一歩進め、今までよりも、もっと深くていねいな取り組みを  
考え、児童における情報活用能力を高める学習活動、学習活動を保証する確かな手応えのある情報・  
視聴覚機器の活用の仕方について考えていきたい。

学校には、近年になって、パソコンや大型テレビ、デジタルカメラ、デジタルビデオなどを始めと  
して様々な情報・視聴覚機器が導入されてきた。

少し前までは、OHPやOHC、カセットテープレコーダーが主流と思われていたのだが、時代の  
要請や科学の進歩によって、今やオールドメディアと呼ばれることもあり、隔世の感がある。

政府においても、「IT」の普及には、力を入れており、横浜市においても、小中高の学校教育に

も、より活用を図るように予算化がなされている今日、もはやこれらに無頓着であったり、無視することはできなくなっている。

現在実施されている新しい教育課程においても、「情報」という項目が明記されており、これからはますます重要になっていくと考えられる。また、各教科においても情報・視聴覚機器を活用するように指導がなされてきており、今後そのような情報・視聴覚機器を活用した教育は、ますます重要視されていくと思われるし、学校現場においても、そのさらなる活用が必然性をおびてくるのは間違いないと考えられる。

このような現状において、よりよい活用のヒントをつかみ、充実した教育活動を保証するためにも先生方と共に、たくさんのアイデアや意見を出し合い、研究を深めていきたいと考え、研究計画を作成した。これらのことは、情報・視聴覚教育研究部員だけでなく、多くの学校の情報・視聴覚教育に関心のある方々にとってもかならずや活用のヒントとなる研究ではないかと思われる。

### 3. 研究会としての関わり

本研究会では、各教科、領域、総合的な学習の時間の中で、

- ①子どもが情報手段の特性を理解し、適切に活用できる学習場面をどのように創るか。
- ②その場面で、教師がどのように子どもと関わるか。

の二つの視点で研究を進める。

#### ①子どもが情報手段の特性を理解し、適切に活用できる学習場面

「子どもが情報手段の特性を理解し、適切に活用できる学習場面」とは、子どもがメディアを使いこなしている学習場面である。「メディアを使いこなす」とは、子どもたちが課題や目的に応じて、情報手段の特性を理解して、必要な情報を集めたり、発信したりすることである。メディアを使いこなす学習では、子どもたちがお互いの考えを出し合って議論しあったり、どのような内容を、どのようにして発信するか考えたりするような学習場面が想定される。

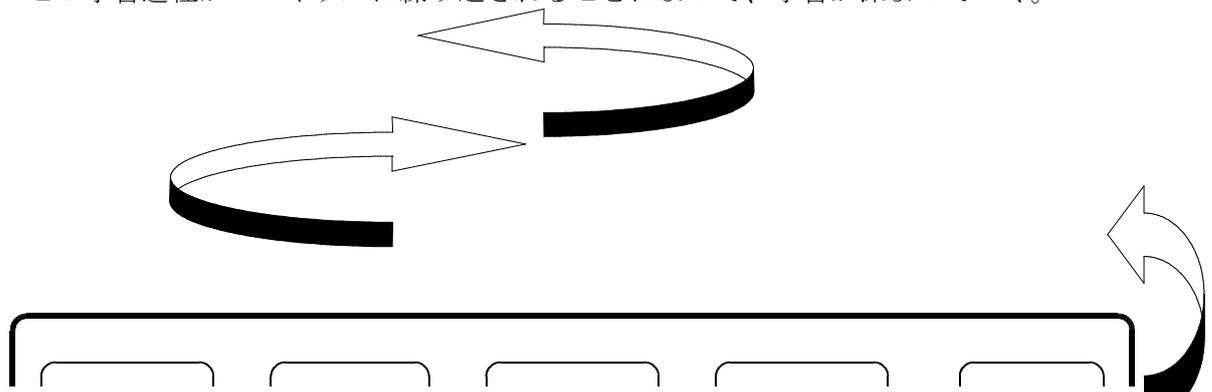
#### ②その場面で教師がどのように子どもと関わるか。

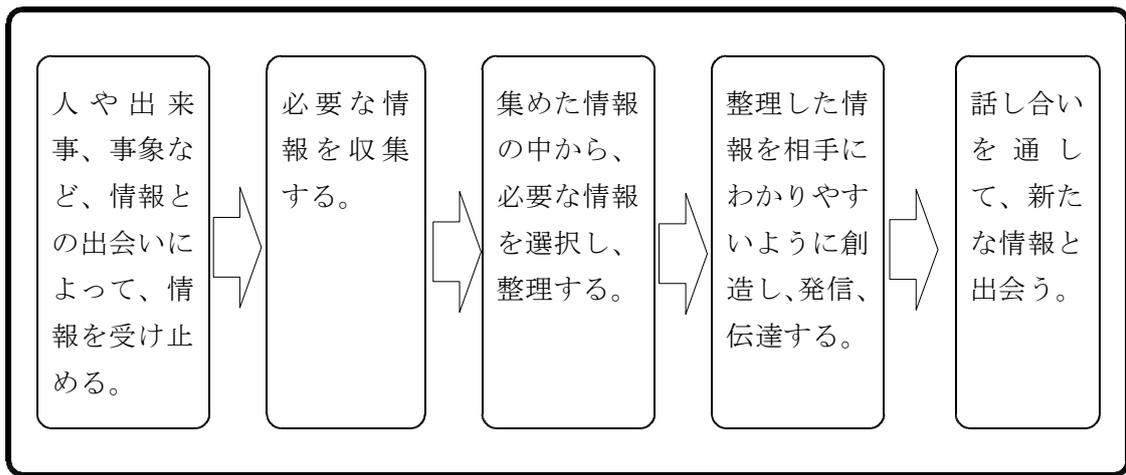
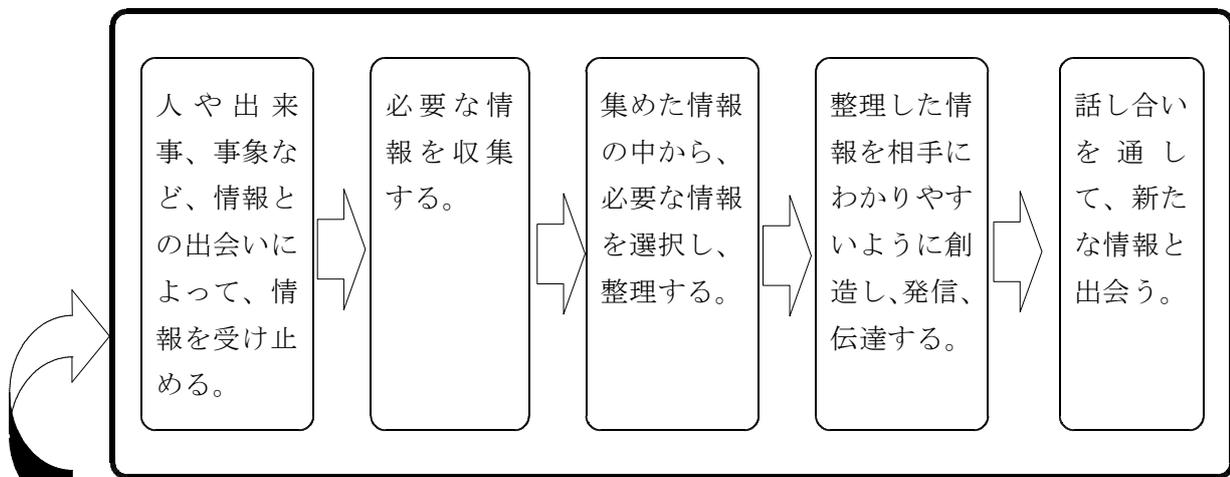
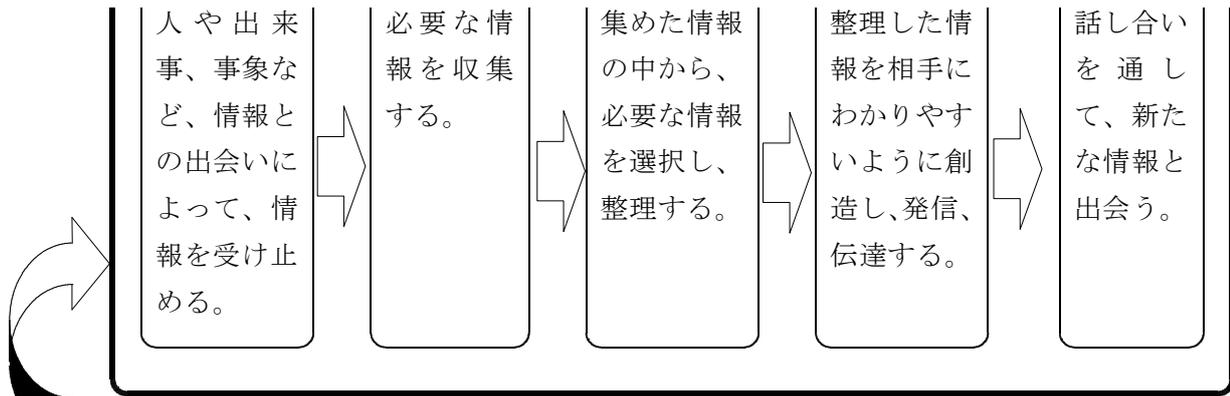
この場面に限ったことではないが、次の2つの視点で関わり方を考えたい。

- 子どもたちが、自己決定できるような関わり方をしているか。
- 共感的な関わり方が、できているか。

### 4 学習過程

この学習過程がスパイラルに繰り返されることによって、学習が深まっていく。



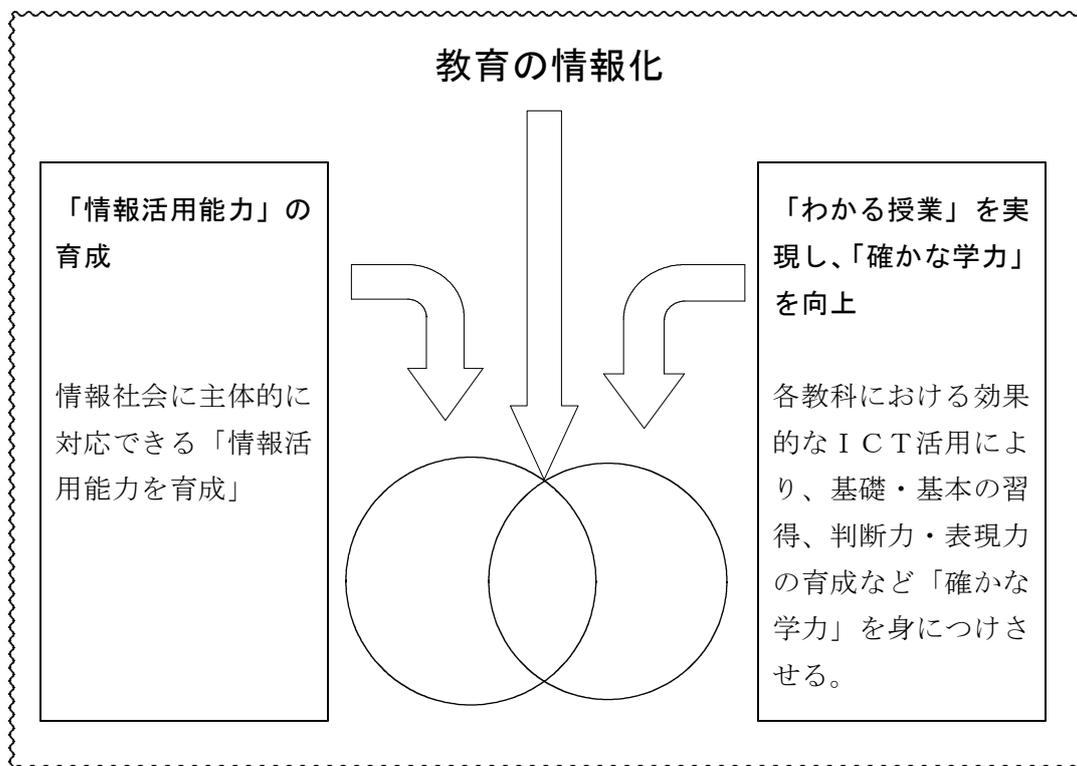


5 「教育の情報化」とICT活用指導力



## 教育の情報化のねらい

教育の情報化により「生きる力」を育む



**教員のICT活用指導力の向上が不可欠**

文部科学省が毎年行っている「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の項目に「コンピュータ等を使って教科指導ができる教員の割合」がある。2001年にスタートし、2006年3月に終了した「世界最先端のIT国家になる」ことをめざした国家戦略「e-Japan」戦略において、「コンピュータ等を使って教科指導ができる教員の割合」をおおむね100%にすることが目標とされている。

しかし実際には、5年間でそれなりの伸びはみせたものの、全国平均で76.8%（もっとも良い結果だった小学校においても85.6%）という結果であった。

そのような状況の中、「e-Japan」戦略に続く新たな国家戦略「IT新改革戦略」でも「学校教育の情報化の一層の推進」を目指すことが示されている。その中の教育に関する具体的な項目には、「教員のICT指導力の向上」として、「全ての教員のICT指導力の向上」そして「ICT指導力の基準の具体化・明確化」がうたわれている。

2007年2月19日に公表された「教員のICT活用指導力のチェックリスト」は「教員のICT活用指導力の基準の具体化・明確化に関する検討会」において策定された。この検討会の主旨には、情報教育の充実やICTを活用した「わかる授業」のためには教員のICT活用能力が不可欠であることが述べられている。そして、教員のICT活用能力を育成するために、その基準を具体化・明確化し、到達目標を明らかにすること、さらに、それを普及し活用する方策の検討が示されている。

## 6 研究主題達成の手だて

### (1) 情報活用能力育成の学習を積極的に推進するための取り組み

#### ①各部会の取り組み

情報活用能力の育成のために

- ・子どもが情報手段の特性を理解し、適切に活用できるような学習場面をどのように創るか。
- ・その場面で教師がどのように子どもとかわったらいいか。

2つの視点で研究を進める。

#### ②研究の進め方、まとめ方

研究主題を受けて、2つの視点で研究を進めるが、研究参加者の取り組みたい内容についても意見を十分吸い上げて取り組んでいくことが大切である。

- ・年間計画を立てる。
- ・2つの視点について検討する。
- ・日常的な実践を報告しあう。
- ・2つの視点で、研究授業を実施し、結果を整理・分析する。
- ・研究結果を発表する。

### 研究のまとめの構成

#### 部会名

##### I 部会研究主題

##### II はじめに

1. 研究主題について
2. 研究の目的

##### III 研究の方法

1. 研究の経過
2. 実践及びその内容

①単元設定の理由

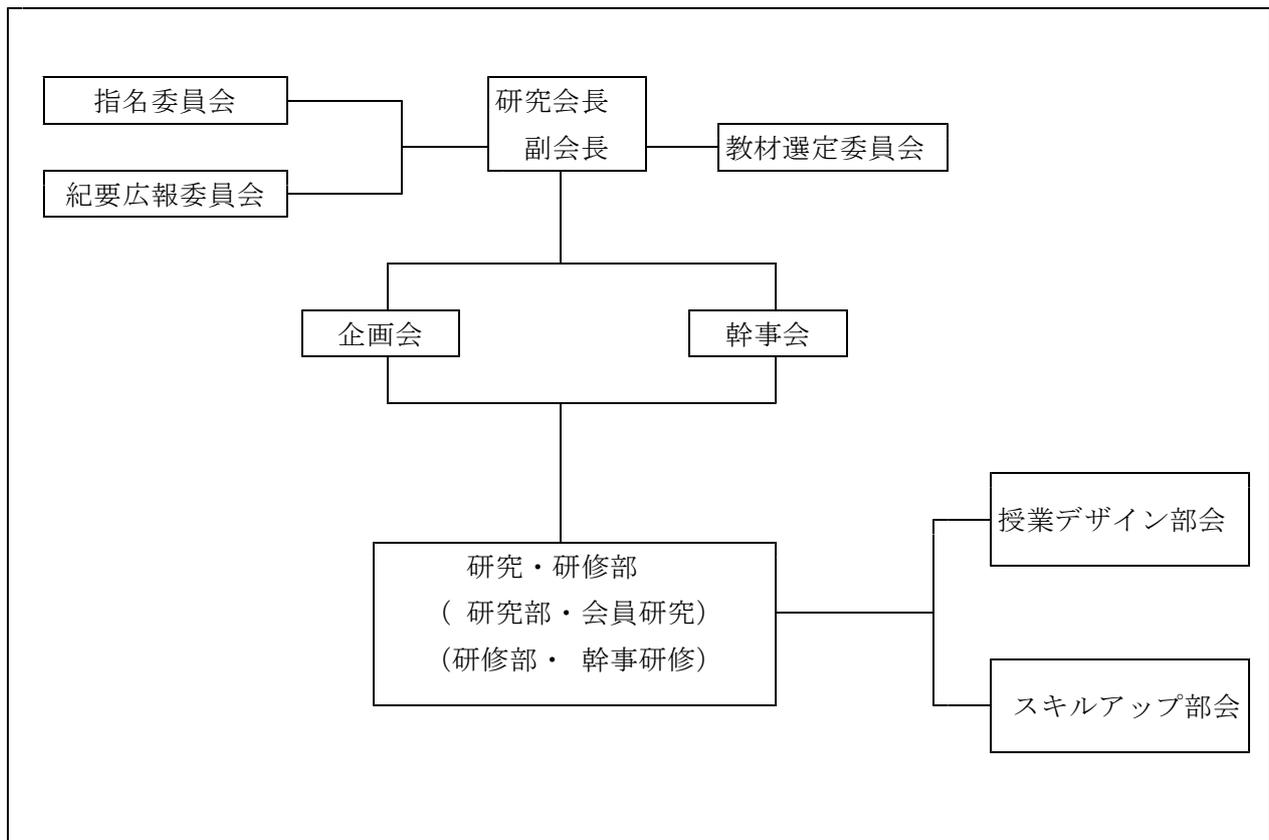
②学習計画

③本時展開

④授業記録・写真を入れてまとめる。

##### IV 研究の成果と課題

(2) 研究活動の機構



(3) 年間研究計画

月	事業名	内容
4	・ 定期大会・講演会 ・ 部会オリエンテーション	・ 方針の提示、会員の意見を聞く ・ 研究計画作成、内容について話し合う。
5	・ 会員研究 ・ 市教育研究会一次大会	・ 部会会員研究（実践提案） ・ 研究会としての参加依頼をする。
6	・ 会員研究	・ 部会会員研究（実践提案）
7	・ 会員研究	・ 部会会員研究（実践提案）
8	・ 県夏季特別研修会	・ 実践研究発表
9	・ 会員研究	・ 部会会員研究（実践提案）

10	・ 会員研究	・ 部会会員研究（実践提案）
11	・ 会員研究	・ 部会会員研究（実践提案）
12	・ 会員研究	・ 公開授業研究（授業デザイン部会）
1	・ 会員研究	・ 部会会員研究・年間反省・部会まとめ
2	・ 市教育研究会二次大会	・ 二部会による発表会
3	・（臨時総会） ・ 情報・視聴覚教育を語る会	・ 区研究会推薦発表（瀬谷区・保土ヶ谷区）

※会員研究の会場は、基本的に杉田小学校（視聴覚室等）とする。

※会場を変更する場合には、会場校校長・会場責任者の内諾を得た上で、研究会長、研究部長に連絡する。

#### ※参考資料

## ICT活用能力（小学校版）

### A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力

- ①教育効果をあげるには、どの場面にどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいのかを計画する。
- ②授業で使う教材や資料などを集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する。
- ③授業に必要なプリントや掲示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。
- ④評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童の作品、学習状況・成績などを管理集計する。

単に情報収集や教材づくりだけにとどまらず、ICTを授業の中にどう位置づけたらいいのかの検討や評価の質を高めるための取り組みについても言及されています。

## B 授業中にICTを活用して指導する能力

- ①学習に対する児童の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
- ②児童一人ひとりに課題を明確につかませるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
- ③わかりやすく説明したり、児童の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
- ④学習内容をまとめる際に児童の知識の定着をはかるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。

教師の授業中の ICT 活用の目的として、「興味・関心を高める」「課題をつかませる」「わかりやすい説明及び思考を深める」「まとめる際の定着を図る」などが示されています。

## C 児童のICT活用を指導する能力

- ①児童がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。
- ②児童が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べたことを表計算ソフトで表や図などにまとめたりすることを指導する。
- ③児童がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく発表したり表現したりできるように指導する。
- ④児童が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図れるように指導する。

子どもたちの ICT を活用した学習活動として、「情報収集」「まとめる活動」「わかりやすい発表や表現」「学習ソフトを使った学習」が示されています。

## D 情報モラルなどを指導する能力

- ①児童が発信する情報や情報社会での行動に責任を持ち、相手のことを考えた情報のやりとりができるように指導する。
- ②児童が情報社会の一員としてルールを守って、情報を集めたり発信したりできるように指導する。
- ③児童がインターネットなどを利用する際に、情報の正しさや安全性などを理解し、健康面に

気をつけて活用できるように指導する。

- ④児童がパスワードや自他の情報の大切さなど、情報セキュリティの基本的な知識を身につけることができるように指導する。

情報モラルに関わる内容として、「相手意識を持つこと」、「ルールやマナーを守っての情報収集と発信」、「安全で正しい利用」、「情報セキュリティの理解」があげられています。

## E 校務にICTを活用する能力

- ①校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。
- ②教員間、保護者、地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して必要な情報の交換・共有化を図る。

校務文書の作成や校務に関わる情報のインターネットでの収集、そして、情報交換や情報の共有化について示されています。

## 今年度の研究について

### 1 研究テーマについて

# ICTを活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ

ICTを活用した事例には、知識・理解の定着を促すもの、児童の既存の知識に働きかけるもの、関心・意欲を高めるもの、思考を深めるものなど、様々な事例がある。その中でも、本研究会では児童のコミュニケーション力の向上を主眼とした。これは、単に学習内容の知識・理解の定着を図ってだけでなく、拡大表示されたものを見ながら意見交流を行ったり、相手が納得するような説明を行ったりしていく場面をつくり、児童の思考の深化や言語力の向上をねらっていることである。

コミュニケーション力を高める研究をしていくことで、児童の思考力・判断力・表現力を高めていく事が可能である。児童のコミュニケーション力を高める授業を研究していくためには、教師がICTを活用した**授業デザイン**をしながら、児童の学びを見つめていき、その変容を丁寧に見取っていく必要がある。

そのためには、授業デザインを構成する6つの要素に着目することが重要である。ICTを使った授業が教科・領域のねらいを達成していくためには、これら6つの構成要素は欠かすことはできない。つまり、授業のねらいに迫っていたか、教師の願いや児童の実態に合っていたか、教材研究は妥当であったのかを、授業の事実（児童の発言、ノート・ワークシート・成果物など）から検討していかなければならない。

このような授業研究を通して、教師の働きかけと児童の反応の因果関係をはっきりさせていったり、児童の中にどのような学びが残ったかを見取ったりしていくことができるようになり、ICTをより効果的に活用する授業について検討してきた。

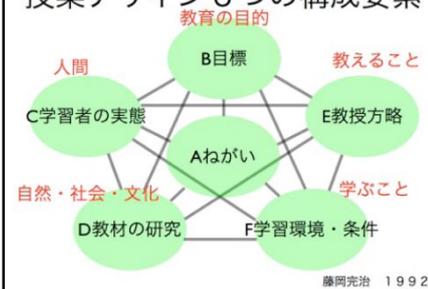
### definition

## コミュニケーション力

主体的に情報にアクセスし、収集した情報から課題解決に必要な情報を取り出し、自分の考えや意見を付け加えながらまとめ、メディアを適切に活用して伝え合うことにより深めていくことができる能力

（「コミュニケーション力指導の手引き」中川一史,2011,高麗社書店）

### 授業デザイン6つの構成要素



## (2) 授業デザイン部会における研究内容

### 部会研究テーマ

「教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン」

#### ①講演会 (6月6日 中川一史教授による講演) ※2部会合同



講演を聴き、本研究会がめざすべき方向性の確認と、「コミュニケーション力」などの定義について確認することができた。実物投影機と大型テレビが配当され、多くの教育メディアの活用が広まってきている中、「大きく見せる」「興味・関心が高まる」

だけではないICT活用の意義が提案された。

つまり、授業の創造こそがICTの効果的活用の土台となっていることと、海外の話題も示されながら今後の教育の展望についても学ぶ機会となった。



#### ②実践提案

5月「科学的な思考・表現を深めるための電子黒板」(3年 理科) 提案者：平野大二郎(庄戸小)

<成果として>

- ・電子黒板を使うことで、イメージの共有化と話し合いの焦点化が図られた。
- ・電子黒板を使うことによって、描画を生かした説明が可能となり、科学的な概念への知識の構築につながる姿が見られた。



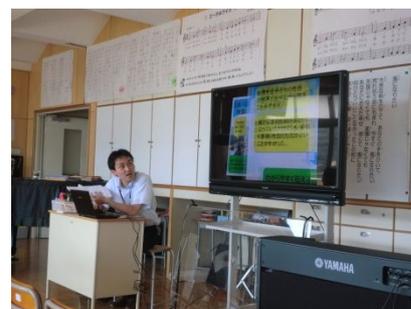
<課題として>

- ・本単元でめざすコミュニケーション力は「②交流」か「③討論」か。
- ☆資料として児童の発話記録が示され、児童の思考の流れや教師の関わり方、見取りと判断が授業を臨床的に分析する手立てとなった。

7月「自分に合った方法で生き生きと表現する学習を目指して～電子黒板の活用～」

(4年 総合的な学習の時間) 提案者：岡田貴彦(茅ヶ崎小)

6月の講演を受けての提案となった。どのようにICTを活用するか、どのような力をつけさせたいか、単元としてのデザインについて考える機会となった。



<成果として>

・相手意識をもち3年生にわかりやすく伝えるために電子黒板を活用したことは、デジカメの静止画やビデオ映像を有機的な効果を生み、興味関心の高まりとともに、伝えることが明確化につながった。さらに相手を意識した発表の練習を練り上げていく中でコミュニケーションが活発に行われた。

・単元を通して、必要に応じてデジカメの活用、写真の活用、映像の活用、電子黒板の活用など、児童が教育メディアを活用する場面を取り入れ、児童の情報活用能力を育成することができた。

<課題として>

・児童に情報活用能力を育てるためには、教育メディアを活用する場면을意図的に学習に取り入れていくことが必要であることが確認された。

・「コミュニケーション力の向上」を図るためには、児童が話し合う内容に配慮し、表現方法より発表の中身を検討し合えるのが望ましいのではという考えも出された。

### ③公開授業研究会

12月 「もののあたたまり方」(4年 理科) 授業者：平野大二郎(庄戸小)

「金属は熱せられた部分から順に温まるが、水や空気は熱せられた部分から移動して全体が温まる」ということを友達と意見を交わしたり共有したりする対話をする。ICTとして電子黒板やアニメーション化を活用し思考・表現の共有と思考の表現、グループ学習を通して対話・交流・討論にまでつながるコミュニケーション力を育む。

授業後の研究会では、

①ICTの活用と子どもの学び(主にコミュニケーションに関わること)

②場の設定と子どもの学び(授業の形態、環境整備に関わること)

③教師の出方(発問や指示に関わること)

以上の視点をもってワークショップ形式で検討が行われた。

①については

○アニメーションのよさ：思考の共有、差異への気づき

●ソフトウェアの限界：色の加工、操作スキルの熟練  
⇒アニメーションソフトを使った思考力・表現力を高める授業の可能性と課題が指摘



## ②については

- グループ編成、授業場面による配置のよさ
  - 比較するためのディスプレイの数等さらなる工夫の必要性
- ⇒◎ICTを活用した授業の場の基本型
- ⇒◎グループの思考の可視化や、全体での共有化のさらなる手立ての必要性



## ③について

- 教科として単元の進め方や授業展開が工夫されていた
  - どこで何を思考させるかという
  - アニメーションを使う必然性や効果の検証
  - 操作が伴うことによるグループへの支援の大変さ
- ⇒単元を通した授業デザインの必要性

## ワークショップ形式

授業をデザインすることと同様に、研究の中身もデザインしていく方向性を大切にしたい。参加型のワークショップ形式をとったのもその一つ。公開授業研究会においても活発な議論が生まれ、教師の側から学びのスタイルを形づくることができた。視点やまとめ方にはまだまだ検討の余地はあるものの、研究会として深めるべき部分や授業や実践の成果や課題が明確になり、収穫の多い研究会となった。



## 2012年度 スキルアップ部会研究報告

研究テーマ “情報機器の日常的な活用と円滑な運用をめざして”

### 1 研究内容

学校内の情報機器を日常的に活用するために、情報機器・ネットワークの環境整備の進め方や様々な活用のしかたについて研究を深める。

### 2 年間活動報告

- 【4月】部会オリエンテーション
  - 年間計画・役割分担
- 【5月】部会研究 学習環境と一体化した情報機器の管理
  - スマートメディアを活用した授業の実践提案
- 【6月】二部会合同研究
  - 講演会／中川一史先生
- 【7月】部会研究 教室内で無線LANを活用した授業実践
  - タブレットPCを使った情報モラル指導  
東京理科大学／東本先生による情報モラル教育指導ソフトの説明会
- 【10月】部会研究 校務用・児童用サーバーの活用と校内LANの構築
  - PC教室用サーバーの利用の工夫と管理について  
児童が保存しやすく、教師がデータを管理しやすい共有フォルダの作り方  
Windows7PCとWindows2008serverの共有設定方法
- 【11月】部会研究 情報・視聴覚担当者の1年間の仕事内容と計画的な進め方
  - 担当者が見通しをもって仕事を進めるための工夫について意見交換
- 【1月】二部会合同研究
  - YYNetの今後の進め方／NTTコミュニケーションズ
  - 新しい書画カメラ・プロジェクターの紹介／ELMO・EPSON

今年度は基本に立ち返って、情報・視聴覚担当者の一年間の仕事の進め方や情報教育計画の作り方といった基礎講座から、サーバーの運用・活用方法や校務システム導入へ向けた準備と機器の整備・校内ICT研修の進め方・円滑に活用できる情報機器の環境整備など、各校の情報・視聴覚担当者にとって身近な課題から研究していきたいと考えた。

良かった点としては、実践提案・研究に留まらず、意見交換の場が設定できたこと、そして、タブレットPCやサーバー、書画カメラ、プロジェクターなど、実機を目の前にして先生方のアイデアを共有する時間が作れたことである。

今後も、学校を取り巻く環境は加速度的に情報化が進んでいくと思われるが、日常的に校務や授業に情報機器を有効活用しながら進めていくために、スキルアップ部会では情報・視聴覚担当の先生方と実践や研究、交流の機会がもてるよう工夫して部会を運営していきたい。

特別講演会 講師：中川一史先生

「コミュニケーション力を育むICTを活用した授業デザインとは？」

○情報教育とは、「教科等でのICT活用」と「情報活用能力の育成」の重なっている部分のことである。

○言語活動の充実のための知的活動とは、

- 1) 事実を正確に理解し、的確にわかりやすく伝える技能を伸ばす
- 2) 自らの考えを深めることで、解釈や説明、評価や論述をする力を伸ばす
- 3) 考えを伝え合うことで、自らの考えや集団の考えを発展させる力を伸ばす

文部科学省 言語力の育成方略について(言語力育成協力者会議資料)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/07081717/004.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/07081717/004.htm)



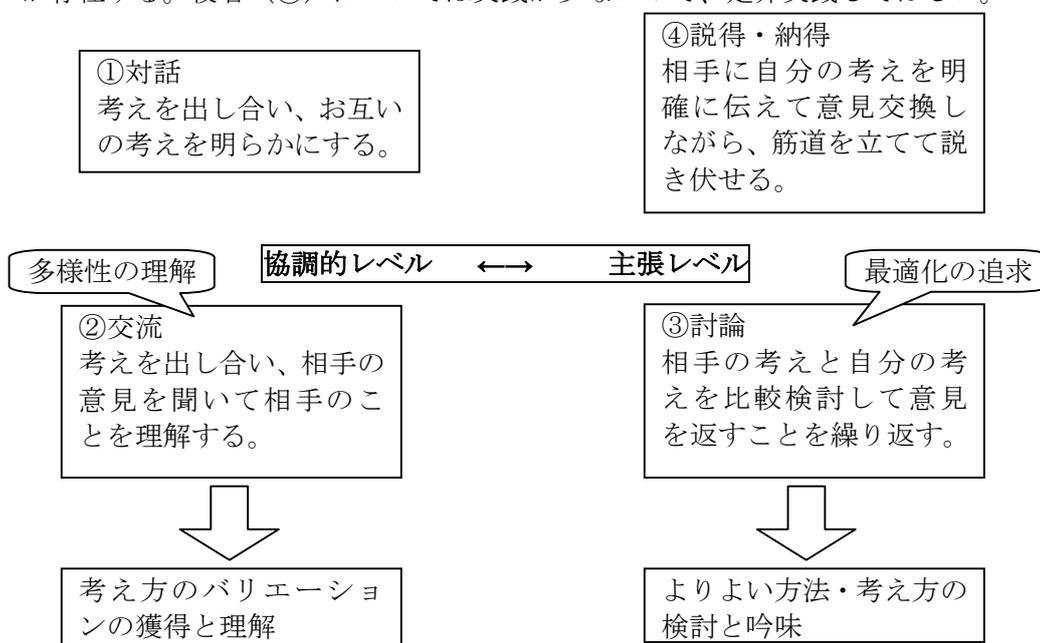
であり、そのためには、ICTを効果的かつ日常的にICTを活用することが必要。

○コミュニケーション力とは、以下の4つに分類できる。

- ①対話・・・考えを出し合い、お互いの考えを明らかにする。
- ②交流・・・考えを出し合い、相手の意見を聞いて相手のことを理解する。
- ③討論・・・相手の考えと自分の考えを比較検討して意見を返すことを繰り返す。
- ④説得・納得・・・相手に自分の考えを明確に伝えて意見交換しながら、筋道を立てて説き伏せる。

①②は協調的レベル、③④は主張レベルと分けることができる。

また、②は「多様性の理解」、つまり、考え方のバリエーションの獲得と理解、③は「最適化の追求」、つまり、よりよい方法・考え方の検討と吟味となり、「考えの広がり」と「考えの深まり」という二つのベクトルが存在する。後者(③)については実践が少ないので、是非実践してほしい。



○「からみ」と「ゆらぎ」

コミュニケーション充実の鍵として「からみ」と「ゆらぎ」がある。

からみ・・・子ども同士の絡み  
 ゆらぎ・・・子どもの思考の揺らぎ

「からみ」は即興性が必要になってくるため、ICTが登場しにくい。「ゆらぎ」は流動性がある。

例) 2年生 国語「お手紙」

本文を根拠に、ICTを真ん中に挟んでコミュニケーションをしている。

根拠を示す道具として、電子黒板+デジタル教科書は最適。

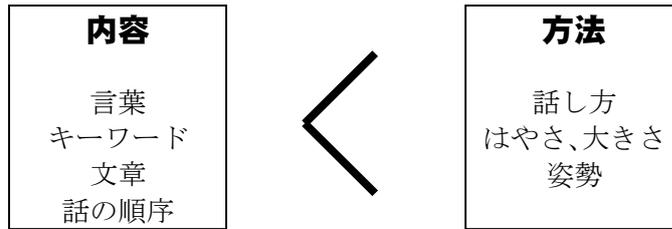
表現物を挟んで、作り手の思いと受け手の解釈には、共有・共感とズレ・違和感が出てくる。

現実・本音と理想・建前のゆらぎに迫るには相手意識、目的意識が必要。

○わかりやすく伝える

「わかりやすく伝える」には「内容」と「方法」のバランスが重要。

わかりやすいとは、「内容」より「方法」の部分が大きい。



そのためにも、脱・形式が必要。

- ・ダメ形式1 もどき傾向・・・パンフもどきを求める国語（教室の後ろに飾ってしまう）
- ・ダメ形式2 カラオケ傾向・・・表面的な発表スキルに終始している総合（調べて、まとめて、発表しておしまい）
- ・ダメ形式3 原稿依存・・・基礎・基本から抜け出ない指導（いつまでも原稿の棒読み）

○授業デザインとICTの再考

1 ICTの役割を吟味しよう ～デジタルとアナログの使い分け～

見る(タブレットPC) vs 書く(ノート)

組み合わせ・使い分けが肝!

ミニホワイトボードミーティング → 実物投影機 → 黒板に貼る

ずっと掲示できる紙、 焦点化できる電子黒板

2 ドリル型の活用に終始するなら紙で十分 ～ICTならではの特性～

特性1・レイヤー（OHPのよさ）

特性2・動かすことができる、示すことができる。

※ デジタル教科書追加機能（光村） マップ、付箋

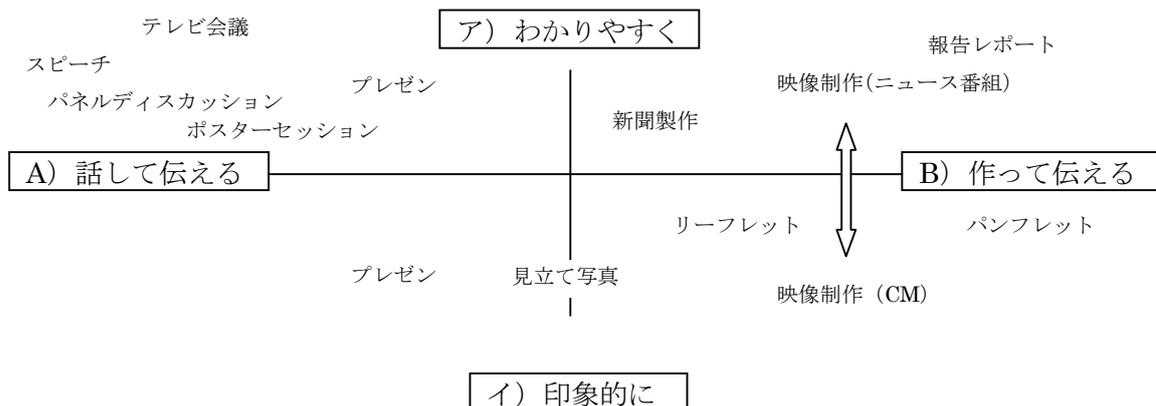
○各省の定義

・協働教育（総務省）フューチャースクール  
ICTを使って児童が教え合い、学び合う

・協働学習（文科省）  
子どもたち同士が教え合い学び合う協同的な学び

発表・討論、制作、意見の分類・整理  
携帯電話で情報収集、他校や専門家との交流

○映像と言葉を行き来させる表現活動



- 「構成」の二つの考え方  
 タイムラインで構成する VS レイアウトで構成する  
 (プレゼン、番組制作) (新聞制作・リーフレット制作)

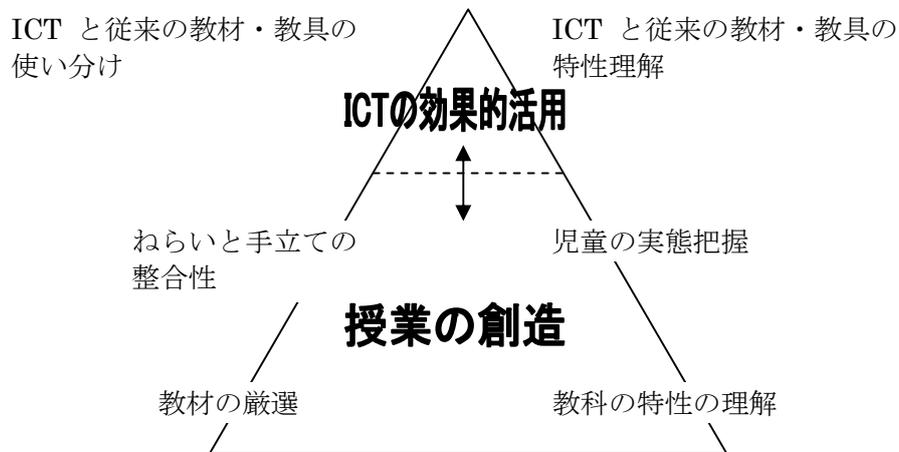
○協働学習と情報端末

情報端末は、

- ①討論の補助具として使う。
- ②考えを試行錯誤しながらまとめる道具として使う。

→一人一台ずつの情報端末(タブレット)で交流するだけでなく、グループで一台を使って交流することもできる。

- 「ICTはあくまでも道具である」は正論だけど～まずは教師がきちんと教えるようになってから?!～  
 使わないと道具にならない。始めから効果的にならない。使ってみないと始まらないのだから、まずは使ってみよう。(SNSの活用 健康観察、授業活用)  
 近い将来、学校教育でのICTは絵の具道具や習字道具などのように「文房具化」されるだろう。
- ICT個々の限界を見極めよう～大きいけど小さい!?～  
 電子黒板で大きく提示することで情報の共有化を図る。  
 例)実物投影機で子どものノートを提示すると  
 「大きく映せる!」「黒板に書かせる時間が軽減できる!」  
 →ちょっと小さいなら大きくしよう
- まず授業デザインが大前提



- ・誰のノートを提示する?なぜそのノート?  
 ※子どもの視点を意識して。



思考の見える化の促進、整理する授業デザインを!!

※教師のはたらき 板書、ICTの活用

- ・「わかりやすい」内容と方法
- ・自分でわかっていると思っていることが本当にわかっているのか。伝わったのか、伝わっていないのかチェックする必要がある。  
 例 「中川君が言いたかったのは( )です。」という相互評価シート など。
- ・ICTを使うということと評価する(教師の、相互の、自己の)ことの両立。  
 → 資料の出し方、示し方  
 → 発表空間!!

平成24年7月27日（金）

あーすぷらざ

## 夏季研修 ビデオ撮影研修会

市図工研究会とのコラボレーションの終了して以来、役員・幹事の間では、情報・視聴覚独自でワークショップを開催できないかという声があがっていた。本年度はその可能性を探るため、ビデオ撮影の基本についてのワークショップを行うこととなった。



会場

神奈川県立地球市民かながわプラザ  
(あーすぷらざ)

講師

瀬谷さくら小学校 諏訪 浩  
深谷台小学校 北條 完二

前半は、基礎についての理論研修を行った。撮影のためにはどのような準備を行えばよいか、撮影する際にはどのような注意が必要かについてをプレゼンが行われた。

後半は、撮影の実技と試写会を行った。撮影のテーマは「あーすぷらざを紹介しよう」で、それぞれのセンスで簡単なシナリオを作り、意図をもって撮影を行った。今回の研修は半日のため、編集については触れる時間がなかったため、ほとんど無編集で仕上げなければならないという、難しい条件でのビデオ制作となった。



試写会では、短時間・ほとんど無編集という条件にも関わらず、比較的クオリティーの高い映像が仕上がっており、情報・視聴覚担当者の見識の高さを感じた。また、研修したことをすぐに撮影に生かしている姿も見受けられた。

## メディアと上手にかかわり 効果的に発信できる力を育む ～NHK for school『メディアのめ』の活用～

提案者 横浜市立東汲沢小学校 教諭  
吉田 圭一

### I 主題設定の理由

新学習指導要領の実施に伴い、各教科・領域においてコミュニケーション力をつける学習が重視されてきている。同時に、相手から受け取る情報や自分が発信する情報についていろいろなメディアが使われ、ICT機器も多様に变化してきている。しかし、学校現場では児童にメディアの使い方やかかわり方について、しっかりと身につけさせる指導はなされているだろうか。約束を守ろうとか相手意識をもってというやや心情面的な指導も大切であるが、メディアの特性を理解し、自ら積極的に活用していく力「メディアリテラシー」を身につけることが大切ではないかと考えた。

### II 番組の特徴

本年度、NHK for school の新番組として、メディアリテラシーを扱う 10 分番組『メディアのめ』が登場した。テレビでも人気の池上彰さんが「分かりやすい」解説と独特の切り口でメディアリテラシーについて教えてくれる。この番組は「メディアリテラシー入門」「メディアの力」「ネットとのつきあい方」の3領域が1・2・3学期の順番で放送されていく。今実践では「メディアリテラシー」を中心に取り上げているが、この番組を年間の学習様々な場面で位置づけ関連させることで、児童の情報活用能力を高めることができる。

### III 研究の内容

「学校紹介の番組をつくらう」(総合的な学習の時間)の中で、自分たちが伝えたいことと発表時間を考慮しながら、「効果的に伝える」ためにどうするか考えた。そこで、全体としてとることとした。①10 分の視聴後実際に活動につなげ、お互いに、活動観察や振り返りで児童の変容をさぐった。

総合「学校紹介の番組をつくらう」

・短い時間でも、印象に残るような伝え方を工夫しよう

①「お客の心をつかむ！ポップの言葉」(第3回)

→5・7・5を使ってリズムよく、かけことば、強調したい部分の色を考える

②「発見！グラフのちから」(第6回)

学校の歴史を紹介するコーナーでは、児童数が大きく変化の様子を伝えたい。

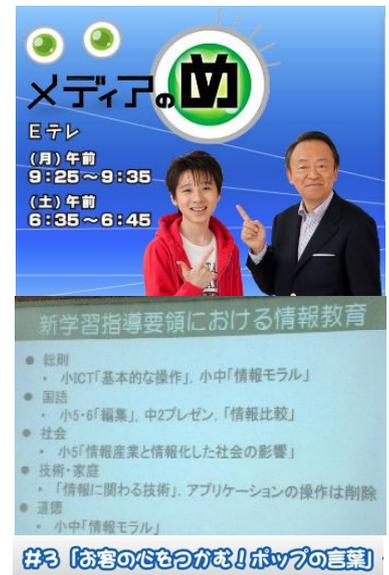
→伝えたい部分を切り取る、グラフに文字を埋め込む

### IV 成果と課題

テレビ局の本格的な撮影という緊張感をもって取り組んでいた。自分たちでリハーサルをしていく中で、見る人がよく分かるように、印象に残るようにという気持ちが高まっていった。ポップやグラフは事前に準備した一つのツールかもしれないが、自分たちが伝えようとする内容を音声だけでなく視覚で訴える重要なメディアである。今回、30秒という限られた時間で伝えるということと一瞬でお客の心をつかむ言葉ポップを結びつけたことで、情報を取捨選択し厳選した言葉を選ばせる機会となった。また、ごく一部ではあるが、グラフの効果や工夫について知ることで、今までは描き方として学んだことがより効果的に印象づけながら変化を伝えるツールとして児童なりに試すことができた。

### V まとめ

『メディアのめ』では、教科で担わされていてとすると軽んじられている情報教育の基礎を子どもたちに分かりやすく、そして優しくアプローチする番組と言える。情報教育が各教科領域で組み込まれている現状をよく理解し、意図的・計画的に指導する必要がある。



# 理科学習指導案

指導者 平野 大二郎

- 1 日 時 平成 24 年 12 月 5 日 (水) 第 5 校時 メディアセンター  
2 学年・組 第 4 学年 2 組 35 名  
3 単 元 名 「もののあたたまり方」  
4 単元について

## (1) 単元について

この単元は「粒子」についての基本的な見方や概念を柱とした内容のうち、「粒子のもつエネルギー」にかかわるものである。金属、水、空気の温まり方の違いを、実験を通して理解させる。実験に当たっては、自分で予想し話し合うことで解決の方法や見通しをもって取り組めるようにしたい。

この授業では、予想と考察を繰り返す中で、科学的な思考・表現を高めていきたいと考えている。友達と意見を交わしたり共有したりする対話をするすることで、達成することができる。そのプラットフォームとして ICT 機器を活用したい。パソコン画面や電子黒板上に子どもが考えたイメージや実験の記録を映し出し、それを指し示しながら説明し合うことを繰り返すことで、対話が増え、思考・表現の高まりが見られることを期待している。

## (2) 児童の実態

### ○ 理科について

3 年生から 4 年生になるときに学級編成替えがあり、半数の児童が持ち上がりである。

昨年度、イメージ画を用いて思考を外化させ、電子黒板を用いて共有・焦点化して話し合いをすることで科学的な思考・表現を深める授業を行ってきた。

前単元の「ものの温度と体積」では、金属と関連させて、体積が変化することだけを確認しているため、このイメージが覆っている児童も多くいることが予想される。そのため、子どもの表現から思考をしっかりとらえ、本単元での科学概念を構成していきたいと考えている。

### ○ ICT 活用について

電子黒板については、学習カードにかき込んだりアニメーション化したりして友達が説明している様子を全員が見ている。

本単元に向けた準備として、メディアセンターの使い方・パソコンの使い方の学級活動に合わせて、1 時間、アニメーション（動かす、変形させる）を作る活動を行っている。

本単元では、グループでパソコンを操作してアニメーションを描いたり、印や記号などをかき込みながら説明していったりする

このような実態の児童に対して、グループに 1 台の環境を整えることで、コミュニケーション力を育みつつ、科学的な思考・表現を高めていけると考えている。

## 5 研究主題との関わり

研究会主題「ICT を活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ」

部会テーマ「教育メディアを効果的に活用する授業デザイン」

### (1) テーマについて

本単元で活用する ICT 機器は電子黒板とパソコンである。これらの機器を、子どもの思考と科学的な事象とを媒介させるツール(メディア)として活用し、科学的な思考・判断を育むために、これらを活用した授業デザインを考えている。

本時のグループ学習では、個人の考えをもとに同じ(似た)考えの児童のグループを作る。

グループの中では、お互いに考えを出し合い、理解し合いながら自らの説明に自信をもてるようにする。ここでは、協調的レベルの②交流をねらっている。

それぞれのグループの意見を学級全体で共有する場面でも、実験前の予想の段階なので、それぞれの考えを聞いて、結果によってどのグループの考えが適当なのか理解することをねらっている。したがって、協調レベルの②交流のコミュニケーションを想定している。

この実験の後、結果を考察する場面では、結果を元に、考えを比較検討しながら、より科学的に妥当な考えへと③討論していくことが予想される。

このような授業デザインのもと、授業を進めることによって、子どもたちにコミュニケーション力を育てていきたいと考えている。

(2) テーマに向けた手立て

- グループ学習を通じたコミュニケーション力の育成
- アニメーションを用いた思考の表現
- 拡大提示することによる思考・表現の共有

6 指導計画

(1) 単元計画 (全7時間)

第一次 金ぞくのあたたまり方(2時間)

- ・金属は、どのように温まっていくのか予想しよう。
- ・金ぞくのあたたまり方を実験で確かめよう。

第二次 水と空気のあたたまり方(5時間)

- ・水は、どのように温まっていくのか予想しよう。
- ・水のあたたまり方の実験方法を決めよう。(本時)
- ・水の温まり方を実験で詳しく調べよう。
- ・水の温まり方について考えよう。
- ・空気の温まり方を調べよう。
- ・ふりかえろう。

7 本時目標

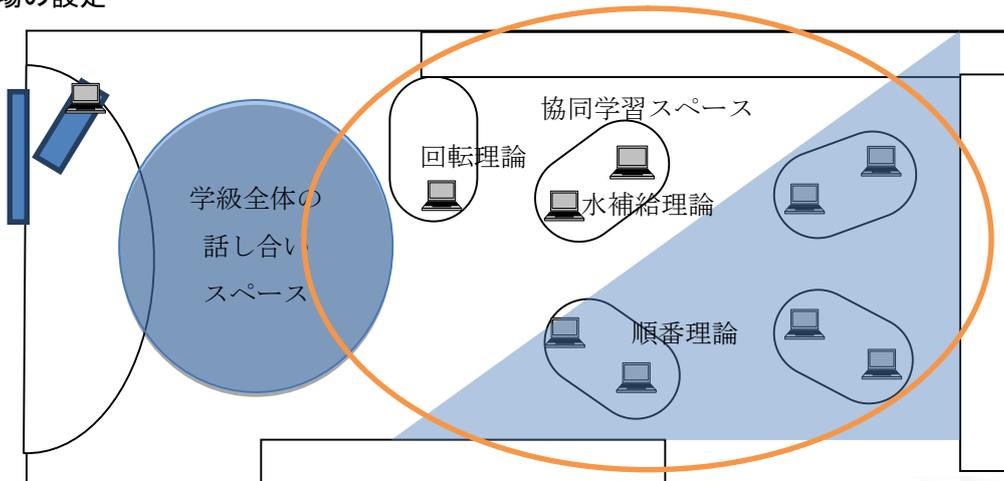
水の温まり方について、生活経験や金属の温まり方や温められた水は膨張すること、温度と体積の学習などと関連付けて予想し、それを検証する実験方法を選ぶことができる。

8 本時展開

○学習活動 ・ 予想される児童の反応	■留意点 ☆評価 ◎コミュニケーション力
水の温まり方の実験方法を決めよう	
<p>○本時のねらいと各グループの予想を確認する。</p> <p>&lt;順番理論&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属と同じように、熱したところから順に温まると思う。</li> <li>・水は動かないと思うよ。(順番説)</li> </ul> <p>&lt;水補給理論&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水があったか人間と一緒にあって、散らばっていくと思う。</li> <li>・水がなくなると、近くの水がまた温められるんだ。</li> <li>・温度はどれも同じ温度で、いっぺんに上がると思う。(お湯どこでも説)</li> <li>・あったか人間と一緒にあったら上に行くと思うから、温度は上の方から温かくなると思うよ。(上から説)</li> </ul> <p>&lt;回転理論&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お湯になって移動していくんだと思うよ。</li> <li>・まず上に行ってから、横に行って、下に降りて、また元の所にもどって開店すると思</li> </ul>	<p>■ 前時の予想を元に、事前にグループ分けをしておく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; background-color: #e0f0ff;"> <p>A～F 順番理論 G, H 水補給理論 I 回転理論</p> </div> <p>■ カードを提示しながら一人ひとりの考えをグループの中で共有し、これからの思考活動の見通しを立てる。</p> <p>■ それぞれの考え方に○○説と名付けて、話合いの一助とする。</p>

<p>うよ。(回転説)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは周りから温度が高くなると思うよ。</li> </ul> <p>○グループごとに予想アニメーションを作り、説明を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順番にあたたまるのはあったか人間が移動していくから、それを表そう。</li> <li>・炎のところからこうやって移動していくんだね。</li> <li>・水は移動していないから、動かないようにしないと。</li> <li>・温まったらお湯になって上に行くと思うよ。</li> </ul> <p>○グループの予想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順番理論なので、温めたところからあったか人間が伝わっていきます。</li> <li>・水は動くと思うから、水補給理論にしました。</li> <li>・水がお湯になって全体に広がるんだと思います。</li> </ul> <p>○話し合いをもとに、実験方法を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炎の近くから温まることを証明したいから、試験官を使った実験Aにしよう。</li> <li>・上に行くのはあったか人間で、水は動かないと思うから、実験Bをしよう。</li> <li>・いや、Cの方が分かりやすいと思うな。</li> </ul> <p>○実験方法とその予想を学級全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちのグループは、順番説で、温めたところから温度が上がると思うので、実験Aをします。</li> <li>・わたしたちは、実験Bをします。温まった水が上がって、上から温まると思うからです。</li> <li>・ぼくたちのグループは、実験Cをします。横上説で、水は動かずに上から温まると考えているからです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パソコンはグループに一台用意しておく。</li> <li>■ 事前に水の粒子(水人間)や熱エネルギーのモデル(あったか人間)、ビーカーを画面上に用意しておき、予想することに集中できるような環境を整えておく。</li> <li>◎ お互いの考えを理解しながら、グループとしての予想を立てる。(②交流)</li> <li>☆ 自分の予想をもとに、グループの話し合いを受けて、自分の考えを深めている。&lt;行動観察&gt;</li> <li>■ サーバーにデータを保存することで、拡大提示するときスムーズに発表できるようにする。</li> <li>◎ 予想を出し合い、相手の考えを理解する(②交流)</li> <li>■ 話し合いをうけて、実験方法を三つから選択する。</li> <li>&lt;実験A&gt; 試験管、サーモテープ</li> <li>&lt;実験B&gt; ビーカー、サーモインク</li> <li>&lt;実験C&gt; ビーカー、サーモ寒天(サーモインクを寒天に溶かし込んで、1mm立方に砕いたもの)</li> <li>◎ 選んだ実験方法でグループの説が確かめられるか、自分の説と比較しながら、意見交換をする。(③討論)</li> <li>☆ 自分たちの予想が正しいことを調べる実験方法を選ぶことができる。&lt;記録分析&gt;</li> </ul>
--	--

## 9 場の設定



## 10 機器、ソフトウェア

- ・ プロジェクタ型 インタラクティブユニット (UCHIDA eB-3N)
- ・ 実物投影機 (ELMO L-lex)
- ・ ワイヤレスタブレット (ELMO CRA-1)

ワイヤレス・ペンタブレット  
CRA-1  
かけるもん



書面カメラ (実物投影機)  
L-lex  
かけるもん



・ アニメーション作成ソフトウェア (PICMO)

1.1 成果と課題

【ICTの活用は子どもの学びとどのようにからんでいたか】

- アニメーションのよさ : 思考の共有、同じ考え違う考えに対する気付き
- ソフトウェアの限界 : 色変化を簡易に表すことができない  
操作スキルの難しさ



- ◎ アニメーションソフトを使った思考力・表現力を高める授業の可能性と課題が見えた

【場の設定と子どもの学びはどうからんでいたか】

- 空間 : グループ編成、授業場面による配置のよさ  
比較するための複数画面など、さらなる工夫が必要
- 時間配分 : 内容の精選と学習活動(形態)の効率化が必要



- ◎ ICTを活用した授業の場の基本型について確認された
- ◎ グループの思考の可視化や学級全体での共有について、さらなる手立ての必要性が指摘された

【教師の出方を変えたらどのような授業の変化が期待できたか】

- 教科の授業デザイン : 理科授業における学級のルールの定着が見られた  
用語のおさえや思考の焦点化がさらに必要
- 単元の授業デザイン : アニメーションを使う必然性や効果の検証が必要
- グループへの支援 : 操作が大変な分、さらにきめ細かく指導が必要



- ◎ 単元を通した授業デザインの必要性が確認された。

1

平成24年度  
第49回神奈川県小学校教育研究会中央研究大会 横浜大会

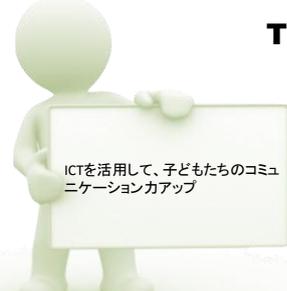
**ICTを活用して、  
子どもたちのコミュニケーションカアップ**



横浜市小学校情報・視聴覚研究会  
横浜市立本町小学校 平野大二郎

2

**Thema**



ICTを活用して、子どもたちのコミュニケーションカアップ

3

**Hypothesis**



教師がICTを活用した授業デザインをしながら、子どもの学びを見つめていくことで、子どもたち相互の情報のやりとりが増え、コミュニケーションカが高まるであろう

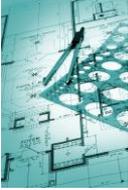
4

**Definition**

**“授業デザイン”**

授業に先立って、教材・子ども・状況の複雑な相互作用の中に自分をおき、変化を自分で決めて授業のストーリーを作る。このストーリーは、表現や発見、対話や相互性の特徴としている。このストーリーを授業デザインとする。

（「授業をデザインする」藤岡完治,1998,金子書房『成長する教師—教師学への誘い』）



5

**Definition**

**“コミュニケーションカ”**

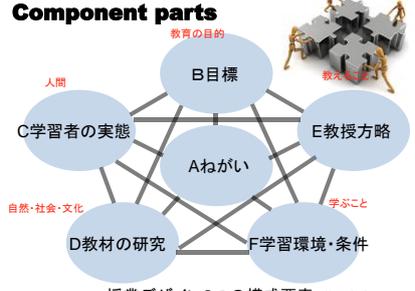
主体的に情報にアクセスし、収集した情報から課題解決に必要な情報を取り出し、自分の考えや意見を付け加えながらまとめ、メディアを適切に活用して伝え合うことにより深めていくことができる能力

（「コミュニケーションカ指導の手引き」中川一史,2011,高陵社書店）



6

**Component parts**



授業デザイン6つの構成要素 藤岡完治 1992

7

**授業デザインにおける  
教師のICT活用場面**

- 課題の提示
- 学習環境の整備
- 学習活動の評価



**Scene of practical use**

8

**研究組織  
Research unit**

研究部

**授業デザイン部会**  
教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーションカを育む授業デザイン

**スキルアップ部会**  
情報機器の日常的な活用と円滑な運用をめざして

考える力や表現力をつけ、児童のコミュニケーションカが高まる授業づくりに焦点を当て、児童の学びと教師の授業改善について、研究を進める。

学校内の情報機器を日常的に活用するために、情報機器・ネットワークの環境整備の進め方や様々な活用のしかたについて研究を深める。

9

**Section of classwork design  
授業デザイン部会**

コミュニケーションカを高める授業

**現在・未来の教室**

- 様々な教育メディア
- 動画や音声、静止画などの情報

**教師に求められている力**

- 教師が意図をもち、発想する力
- 授業を構成して、教材を選ぶ力

**これまでの研究成果**

- 教科の目標を達成するための活用であること
- 教師が具体的なねらいをもって活用すること

**児童に求められている力**

- 実生活の中で様々な教育メディアを適切に活用できる力



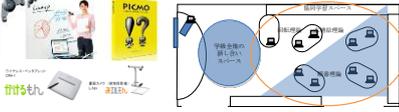
1 0

**Teaching practices 授業実践**

4年生 理科  
「ものあたたまり方」

- ICTの活用は？
- 場の設定は？
- 教師の出方は？

**本時目標**  
水の温まり方について、生活経験や金属の温まり方や温められた水は膨張すること、温度と体積の学習などと関連付けて予想し、それを検証する実験方法を選ぶことができる。



1 1

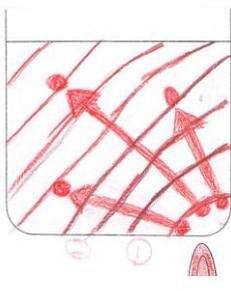
**導入**



1 2

**順番理論**

金属と同じように熱したところから**順番**にあたたまる。水は動かない。



1 3

### 水補給理論

水はあったか人間と一緒に上に行く。温度は上の方から温かくなる。

1 4

### 回転理論

お湯になって移動していく。上に行ってから横に行って、下に降りてまたもどってくる。

1 5

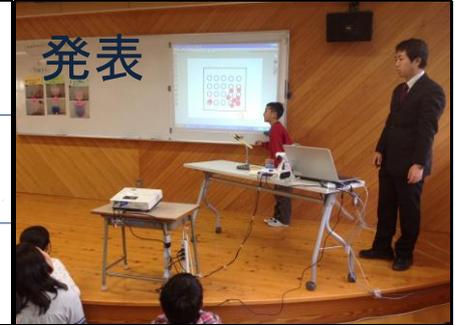


1 6

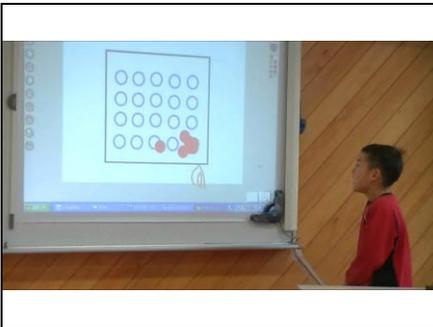


1 7

1 8



1 9



2 0

### 実験方法の相談

T: C (サーモつぶつふ寒天が人気ですね。なんでCなのか理由言える?)  
 C: 回転理論はつぶつふが回るのが説明できる。  
 C: 回転説は水が動くから、水が動かなければ順番説になる。  
 T: 一騎打ちだね!

2 1



2 2

#### 【場の設定】

- 場によるメリハリ
- グループ学習によるコミュニケーション促進
- サーバーの効果的活用

#### 【課題】

- 時間配分のミス
- 発表時間の発話量の少なさ
- 板書の活用
- 複数画面での並列提示

2 3

#### 【教師の出方】

- 学級ルールの定着
- さらなる思考の焦点化
- アニメーションを使う必然性の検証
- グループへのきめ細かな支援

2 4

#### 【ICTの活用】

- 思考の可視化
- 思考の共有
- 高度な表現
- 必要感の希薄さ
- 操作の難しさ
- ソフトウェアの限界

2 5

### Conclusion まとめ

- アニメーションソフトを使った思考力・表現力を高める授業の可能性と課題が見えた
- ICTを活用した授業の場の基本型について確認された
- グループの思考の可視化や学級全体での共有について、さらなる手立ての必要性が指摘された
- 単元を通した授業デザインの必要性が確認された

2 6

### 次の日、、、

C: 寒天動いていない。  
 C: 動いてる動いてる。  
 C: 寒天が動いた。  
 C: じゃあ、回転説ってこと?  
 C: 回転してないよ。  
 (中略)  
 C: 回転した。  
 C: 色、変わった。  
 C: 回転理論が正しいかも。  
 C: 回転かも。  
 C: 回転だ。  
 C: 回転だ。  
 C: 寒天理論(!)

動画撮影:児童

2 7

### 板書 考察 実験結果

板書の活用  
 複数画面での並列提示  
 さらなる思考の焦点化  
 アニメーションを使う必然性  
 操作の難しさを補う電子黒板活用

平成25年2月13日

神奈川近代文学館

## 平成24年度横浜市小学校教育研究大会・二次大会 情報・視聴覚教育研究大会

1 はじめの言葉 田中校長先生（谷本小）

2 役員紹介

運営：岡田先生（茅ヶ崎小） 司会：鳥越先生（北方小）

記録：授業デザイン部会 …堀 先生（根岸小） 鈴木先生（権太坂小）

スキルアップ部会 …小串先生（川和東小） 武井先生（奈良の丘小）

講師：横浜市教育委員会指導企画課 主任指導主事 栗原秀樹先生

3 研究発表

【授業デザイン部会】

「教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン」吉田先生（東汲沢小）

6月の中川先生の講演会から教師の考えと子どもの育ちのマネジメントについて考えることができた。また、子どもに身に付けさせたい力→コミュニケーション力について、「対応性の理解」「最適化の追求」「コミュニケーション力の4段階 ①対話 ②交流 ③討論 ④説得・納得」など、様々な観点から考えることができた。

### 活動の内容について

＜平野先生・実践提案＞

イメージの共有・描画をいかした説明に効果的な電子黒板の活用について

＜岡田先生・実践提案＞

多様なICT活用 デジカメや電子黒板の活用について

＜公開授業研究会＞

「ものにあたためり方」 平野先生（庄戸小）

授業後の研究協議会にて

①ICTの活用と子どもの学び

②場の設定と子どもの学び

③教師の出方

上記三つの視点を柱に研究協議をおこなった。

①について；アニメーションソフトを使った思考力表現力を高める授業の可能性が見えた。操作や活用には課題あり。

②について；グループの思考の可視化や全体の共有化に課題

③について；グループ支援の難しさ・単元を通じた授業デザインの必要性を示唆

以上の検討を受け、次年度に向けて→授業分析・焦点を絞った研究・10年後や20年後を見越した提案を続けていくことが大切。

<吉田先生の全放連提案>

サルも人も愛した写真家という話（6年生）子どもたちの名前マグネットを使った意見交流について

○質疑

「焦点を絞った研究は、どのように進めていくのか。」

討論・説得の段階に子どもを高めていく授業（ICTの活用とコミュニケーション力の育成）教科は絞らず、様々な発達段階の授業実践を重ねたい。未来の担い手としての子どもに必要な力をここで身に付けさせたい。

「電子黒板とホワイトボード（各班での話し合いに使っている）の併用を工夫している。」

子どもに自由に使わせられるホワイトボードを自分も活用している。デジタルやアナログということではなく、それぞれの良さを生かすことができる。活用をするかしないかによって話し合いのまとめが全然違う。

【スキルアップ部会】

「情報機器の日常的な活用と円滑な運用をめざして」須永先生（谷本小）

今年度は実機を活用した研究を深めることを主眼に取り組みを進めることができました。

また、ひざをつきあわせて、話し合いに夢中になるような研究にしたいという思いから、部会の名称を「スキルアップ部会」に改称した。研究内容としては、日頃の担当者の仕事の進め方（校務に関すること）、学習環境と一体化した危機管理、PC教室の環境整備等多岐にわたるが、担当者の努力や活用によってより充実した学習が期待できるものである。

## 活動の内容について

### 2 年間活動報告

【4月】部会オリエンテーション

○年間計画・役割分担

【5月】部会研究 学習環境と一体化した情報機器の管理

○スマートメディアを活用した授業の実践提案

【6月】二部会合同研究

○講演会／中川一史先生

【7月】部会研究 教室内で無線LANを活用した授業実践

○タブレットPCを使った情報モラル指導

東京理科大学／東本先生による情報モラル教育指導ソフトの説明会

【10月】部会研究 校務用・児童用サーバーの活用と校内LANの構築

OPC 教室用サーバーの利用の工夫と管理について

児童が保存しやすく、教師がデータを管理しやすい共有フォルダの作り方

Windows7PC と Windows2008server の共有設定方法

【11月】部会研究 情報・視聴覚担当者の1年間の仕事内容と計画的な進め方

○担当者が見通しをもって仕事を進めるための工夫について意見交換

【1月】二部会合同研究

○YYNet の今後の進め方／NTT コミュニケーションズ

○新しい書画カメラ・プロジェクターの紹介／ELMO・EPSON

○質疑

「スキルアップ部会の立ち上げの年、刺激的な内容でとても魅力的だった。」

時代の要請に答えていく必要のあったネットワーク部会から、自分達に必要な研究へと変わっていった。授業デザイン部会とうまく絡み合ってきた。最近の事例として書画カメラの付属ソフトの活用においてインターバルカメラ機能が使えるようになったように、どこにどんな可能性があるのかわからないので、今後も期待している。

○指導講評

先週の県中央大会に続き、本日も熱心な研究を進めていることが感じられた。

本年度の二部会、ものづくりに大事なものは、設計の非連続テキストの構築・思考力判断力が重要。設計者・建築者・住居者の三つが噛み合わないといい家作りは成り立たない。それが学校現場では、教師と子どもと環境との三者がそれにあたる。

義務教育の中での情報教育という視点、学びの意欲と ICT 機器との関わりを今後も深めたい。人が自由にものごとを学ぶためには、ICT には不向きでもある。可能性と限界を教師が感じ取り、子どもたちには、選ばせる（情報活用能力を培う）ことが大切である。また、今後の予定として5年に一度、YYnet の更新がある。YYnet を将来的には学習ラインとして残し、事務ラインは YCAN に統合ということもあるかもしれない。

# 保土ヶ谷区情報・視聴覚教育研究部 研究活動のまとめ

## 1、研究主題 「使う 深める 活用する情報教育」

～情報活用能力の高まり～

## 2、研究経過

月日		活動の種類や名称	主な内容／分担／その他
4	18	年間計画	組織決定・年間計画作成
5	30	エクセルの様々な活用法 パソコンクラブの活動	実技研修①(保土ヶ谷) 実践提案①(新井)
6	20	アニメーション作り等 インターネットを利用した体づくり運動	実技研修②(藤塚) 実践提案②(帷子)
7	18	アナログ音源のデジタル化と編集と活用 情報モラル教育	実技研修③(坂本) 実践提案③(星川)
8	23	教育現場の情報機器活用 デジタル教科書の利用	夏季研修
9	19	画像圧縮ソフト、アニメーションソフトの紹介 Webサイトの活用	実技研修④(岩崎) 実践提案④(笹山)
10	17	情報委員会とパソコンクラブの取り組み CDレコーダーの活用	実技研修⑤(瀬戸ヶ谷) 実技研修⑥(くぬぎ台)
11	21	指導案検討	指導案検討①(桜台)
12	19	指導案検討	指導案検討②(桜台)
1	30	区一斉授業研究会 「はこの形」(算数) 「アップとルーズで伝える」(国語)	一斉授業研(桜台) 2年 程島京介先生 4年 溝口功一先生
2	27	年間のまとめ	幹事

## 3、研究のまとめ

今年度の活動は、前年度反省を受け、「授業実践」と「教師のスキルアップ」の2点について焦点化して年間を通して研究に取り組んできた。

「授業実践」については、一斉授業研を見据え、それぞれの提案者から、「機器を用いて児童の理解を促すもの」、「情報そのものの扱いについて考えるもの」、「機器を扱うことが学習そのものとなるもの」などが提案された。

「教師のスキルアップ」については、委員会活動やクラブ活動、授業などでの実践的な取り組みの紹介に加え、CD音源の作成方法やエクセルを使った校務処理の方法など、学習に間接的にかかわる部分についての研鑽を深めることもできた。

また、校務システムの情報交換の時間を毎回の区研の中に設け、区内各校の校務システムへの移行の進展状況を確認し合うとともに、先立って作業を進めた部分についてはどのような手法での取り組みが効率的であるかを区内で情報の共有化を図ることができた。

今後、さらに児童を取り巻く情報化社会の変化を見据え、学校教育として何が求められ、何ができるのかを考えながら、より発展的・継続的な研究活動に取り組んでいきたい。

## 平成24年度 中区視聴覚・情報教育研究部

### 1. 研究テーマ

子どもが意欲的に学習に取り組むための  
効果的な視聴覚機器の活用をめざして

### 2. 研究経過

月・日	内容	提案校	司会	記録	会場
4・18	研究計画・組織	部長校	大鳥	大鳥	大鳥
5・30	実践提案 実技研修など	北方	元街	元街	北方
6・20	実践提案 実技研修など	本町	山元	山元	本町
7・18	実践提案 実技研修など	間門	本牧南	本牧南	間門
8・23	実践提案 実技研修など	本牧南	附属	附属	本牧南
9・19	実践提案 実技研修など	大鳥	本町	本町	山元
10・17	指導案検討	山元	大鳥	大鳥	山元
11・28	西・中合同授業研究会	山元	幹事校		山元
12・19	実践提案 実技研修など	元街・本牧	北方	北方	元街
1・30	実践提案 実技研修など	立野	本牧	本牧	立野
2・27	実践提案、実技研修 まとめ	附属	立野	立野	附属

### 3. まとめ

#### 〈成果〉

本年度は「視聴覚機器」を使うことで学習効率が上がる場面を中心に研究を進めてきた。また、新しい機器を取り入れた研究もしながら、既存のものを工夫して使うことにより効率が上がることがあるのではないかと、提案していった。研究会の話し合いも、部員の経験から事例をもとにすぐ使えるような話し合いを心がけた。そのため、各校の視聴覚機器の使用状況などを情報交換しながら進めていくことができた。

#### 〈課題〉

どの学校でも共通している課題が研究会でも提案されたが、決定的な解決方法はなく、学校や児童の実態に合わせた工夫をしていく必要が感じられた。たとえば、情報・視聴覚関係のカリをどのクラスでも実施していくような工夫や、デジカメなど、気軽に使いたい機器の管理やPCルームの管理など厳しくすると使用しないクラスが多くなる傾向があり、これからの課題と言える。また、情報モラル教育も、情報機器から遠ざけてしまうことのないように伝えることを考えて行きたい。

横浜市立大鳥小学校 柴田 順幸

## 港南区視聴覚・情報教育研究部

### 1. 研究テーマ

「子どもが情報を活用し、主体的に学ぶ姿を目指して」  
～子どもの情報活用能力の育成と、教師の情報機器活用能力の育成～

### 2. 研究経過

今年度は6校の提案、3校の実技研修をしていただいた。実践事例の提案後は情報交換の時間を設けて各校の状況を参考にする時間とした。

月 日	内 容	会 場
4月18日	年間計画提案 役員選出	上大岡小
5月30日	実践提案 算数 「四角形をつくろう」(芹が谷南) 体育 「思いっきり走ろう」(下永谷) 情報交換 校務システムの取り組み状況について	芹が谷南小
6月20日	実践提案 「フリーソフトAudacityを使った音楽編集について」(永谷) (運動会の演技や応援合戦のBGMの編集) 算数3～6年「デジタルコンテンツの活用について」(小坪)	小坪小
7月18日	実技研修 「各校授業における効果的なICT活用について」(港南台第一) 情報交換 情報・視聴覚担当者の校務について	港南台第一小
8月23日	実技研修 「書画カメラの活用について」(野庭すずかけ) 情報交換 情報の取り扱いについて	野庭すずかけ小
9月19日	実践提案 「3年社会 発見しよう!港南台のまちのいろいろな顔」(港南台第二) 「校務システムの取り組み」(日野) 情報交換 校務システムの取り組み状況について	港南台第二
10月24日	実技研修 「ICT活用指導力向上研修(富士通エフ・オー・エム)」 (野庭すずかけ)	野庭すずかけ小
11月21日	一斉授業研究会指導案検討会①	南台小
12月19日	一斉授業研究会指導案検討会②	南台小
1月30日	港南区一斉授業研究会 1年 英語「英語の絵本を楽しもう」 5年 図工「その場くん登場」 6年 体育「バスケットボール」	南台小
2月27日	本年度反省、次年度計画(予定)	

### 3. まとめ

子どもの「情報活用能力の育成」というテーマのもと実践提案及び実技研修を中心として研究を進めた。子どもが情報を受け取り、いかに活用して思考を深めるのか、どのように新たな情報を自ら発信するのか。そして、それを支援するための教師の役割やICT機器の活用について、具体例をもとに話し合うことができた。課題も多いが、「明日から取り組むことのできる」研究ができた。また、各校の情報・視聴覚機器の管理・設定・運用方法などについても話し合う時間を設け、情報の取り扱いや校務システムの運用状況について意見交換を行うことができた。

芹が谷小学校 宇木 秀敏

## 都筑区情報・視聴覚教育研究部

### 1. 研究テーマ

- 主体的に情報をつかみ、情報を生かして学び合う子の育成  
～豊かな学びにつなげる ICT 機器の活用と情報モラルの育成～

### 2. 研究経過

月 日	内 容	会場校
4月18日	年間計画・役割分担	山田小
5月30日	☆実践提案1（南山田）【放送委員会の指導について】	南山田
6月20日	☆実践提案2（茅ヶ崎）【NHK教育放送の活用・電子黒板の活用】	茅ヶ崎
7月18日	★実技研修1（北山田）【ジャストスマイルの機能について】	北山田
8月23日	★実技研修2（都筑）【実物投影機の活用、「何してる？」による児童PCの管理】	荻田東第一
9月19日	☆実践提案3（都田）【各校HPの情報交流、校務システム①】指導案検討（1）	荻田東第一
10月17日	指導案検討（2）	勝田
11月21日	一斉授業研究会	勝田
12月19日	☆実践提案4（中川西）【校務システム②】	中川西
1月30日	☆実践提案5（つづきの丘）【校務システム③】	つづきの丘
2月27日	年度のまとめと次年度の方向性について	山田小

### 3. まとめ

#### <成果>

- ・コンピュータやその他の視聴覚機器（テレビ・電子黒板・ビデオ・デジタルカメラ・実物投影機など）の授業への活用実践の提案交流ができた。
- ・一斉授業研では、算数の授業においてコンピュータの自作ソフトを使って、子どもたちが自ら情報を得たり、それらを選択・活用する授業提案がされた。また、国語の授業では、プレゼンテーションソフトによる教材をテレビを使って効果的に提示することができた。
- ・各学校に配備されているコンピュータのソフトの活用についての実践提案があり、有効活用を促すことができた。
- ・NHK 教育放送の活用について、教材紹介や教室での有効な運用の仕方などが提案された。
- ・放送委員会の指導や学校ホームページの運用などの実践交流や情報交換ができた。
- ・導入される校務システムについての導入状況や環境整備についての情報交換ができ、校務の情報化に向けた研修となった。

#### <課題>

- ・本研究会での研究内容を各校へもっと伝達していきたい。
- ・「人と人のつながり」を大切にした学習のねらいを達成できるような実践を進めていきたい。
- ・「学びと学びのつながり」を実現するような情報・視聴覚機器の活用を目指していきたい。
- ・情報を活用し、情報社会への参加の態度を育成するような実践を提案していきたい。

# 泉区情報・視聴覚教育研究部会

## 1 研究主題

「児童の主体的な学習活動を促すために、視聴覚・情報メディアを効果的に活用しよう」  
～情報活用実践力の育成をめざして～

## 2 研究経過

	内容	会場
4月18日	役員決め、組織年間計画	緑園西
5月30日	実践提案① 「流れる水のはたらきの実験のまとめ方」 実技研修① 「備品管理ソフト」・Excel (VBA) 使用	緑園東
6月20日	実践提案② 「フラッシュカード」 実技研修② 「星座・月・太陽ソフト『StellaTheater』」	伊勢山
7月18日	実践提案③「三角形と四角形」「いろいろなかたちを見つけよう」 実技研修③ 「校務システムについて」「便利なキー操作」	緑園西
8月23日	実技研修④ 「実物投影機の活用」 実技研修⑤ 「Flash 教材サイト KANZA」	いずみ野
9月19日	実践提案④ 「あったらいいなこんなもの」 ～ビデオカメラを利用したふり返し～ 実技研修⑥ 「Google Earth の活用法」	いちょう
10月17日	実践提案④ 「委員会活動の実施」 実技研修⑥ 「社会科の授業に使える WEB サイト紹介」	中和田南
11月21日	一斉授業研究会 学習内容の検討①	和泉
12月19日	一斉授業研究会 学習内容の検討②	和泉
1月30日	一斉授業研究会	和泉
2月27日	研究のまとめ、次年度に向けて	岡津

## 3 まとめ

### 〈成果〉

「実践提案」と「実技研修」の2本立てで研究会が行われ、「実技研修」では、教師の公務にかかわるところを提案してもらったので、即座に業務に生かすことができた。特に来年度から校務システムが施行される。その情報交換として、各校の取り組み状況や利用実態などを行うことができた。また、各学校で抱える問題点を出し合い、情報の共有化を諮ることができ、教職員の願いに沿った研修ができた。

「実践提案」では、児童がより主体的に取り組むことができるようにする具体的な手立てを提案してもらった。また、ICT機器の操作方法や効果的な活用法の共有ができた。

### 〈課題〉

ICT機器が数多く存在する中で、児童の学習活動に適した機器や情報を選択すること、また、教師が適切なICT機器を授業の中でどう位置付けていくかという点では、来年度以降もそのような課題を念頭に置いて、研究に取り組んでいきたい。また、校務システムについても今後情報交換を進めていきたいと思う。

## 平成24年度 情報・視聴覚教育研究部活動報告

### 1. 研究主題

「一人ひとりが情報を活用し、主体的に学び、関わり合う子の育成」  
 ～ICT機器や、校内ネットワークの効果的な活用を通して～

### 2. 年間活動計画・役割分担

月	日	提案	司会	記録	会場	内 容
4	18	部長	幹事	幹事	東戸塚小	年間研究計画・テーマ
5	30	名瀬小	平戸小	川上北小	東戸塚小	実践提案①
6	20	東品濃小	平戸台小	東汲沢小	東戸塚小	実践提案② 実技研修提案
7	18	俣野小	舞岡小	汲沢小	俣野小	実践提案③
8	23	鳥が丘小	南舞岡小	倉田小	東戸塚小	実技研修
9	19	深谷台小	上矢部小	南戸塚小	深谷台小	指導案検討（活動計画）
10	17	深谷台小	名瀬小	大正小	深谷台小	指導案検討（本時展開）
11	21	深谷台小	小雀小	幹事	深谷台小	区一斉授業研
12	19	柏尾小	川上小	下郷小	東戸塚小	実践提案④
1	30	東俣野小	秋葉小	品濃	東戸塚小	実践提案⑤
2	27	部長	幹事	幹事	東戸塚小	研究のまとめ

### 3. まとめ

本年度は、「授業場面における機器の活用」「校内情報化環境整備」「校務システム導入にあたっての現状と課題」について取り上げて実践提案がなされた。中でも、各教室に設置された大型テレビを活用した提案が多く、書画カメラやパソコン、デジタルカメラなど多くの機器と併せて使用することで、児童の学習への意欲・関心を高めたり、学習の効果をより高めたりすることが期待できるものであった。特にデジタルカメラは以前に比べより身近なものになってきており、誰もが扱いやすい機器の一つである。デジタルカメラは記録用としてだけでなく、児童の表現の一つとしても活用することができる。授業の質を高めるツールの一つとして、さらなる研究が必要であろう。

児童自信のICT機器の活用に関しては、ジャストスマイルや動画編集ソフトなどを用いた授業提案があった。また、マウス・キーボードの基本的な操作に慣れるためのソフトを活用し、スキルを一つずつ高めていくことで、インターネットでの検索ができるように児童の能力を高めていくなど、単元を通しての提案もなされた。どの提案にも共通するのは、日頃から児童に様々な機器に触れさせていくことが大切である、ということだ。児童がパソコン等を自由に扱うことができれば、授業の展開もスムーズになり、ICT機器の活用により高い効果が期待できる。

教師も児童もたくさんの機器に触れ、ICT機器をより身近なものとして授業の中で活用できるよう、今後も研究・研修を深めていきたい。

東戸塚小 矢内 遥平



# 平成24年度 港北区情報・視聴覚教育研究部

## 1. 研究テーマ

「コミュニケーション能力を育む教育メディアの効果的活用をはかろう」  
～学びのネットワークを広げる情報・視聴覚教育～

学校においてもネットワーク化が進み、情報教育が重要な機能を果たすことが期待されている。環境を整え、児童がそれらに慣れ親しみ、自ら情報の送り手となるための力を育てることが求められている。

そこで港北区情報・視聴覚教育研究部としては、教育メディアの機能を活かし、児童が主体的に活用していき、表現力・コミュニケーション能力を高めていくための手だてや効果的な活用について研究を深めていく必要があると考えている。

## 2. 研究経過～主な研究内容～

☆教育メディアの特性や機能を考えた、効果的な活用方法の研究

☆教育メディアを効果的に活用するための研修

☆教育メディアに関する情報交換や、新機種・新教材の紹介

☆情報社会に参画する態度の育成、情報モラルの必要性を考えた授業展開の研究

月	日	内容	会場校
4	18	総会(研究テーマ・年間活動計画・役員選出)	小机小
5	30	実技研修会① 「言語活動の充実をめざした電子黒板の活用」	高田小
6	20	実践提案① (篠原西小) 「生活科『わたしのやさいはおいしいよ』における教育メディアの活用」 「委員会活動における教育メディアの活用」	高田小
7	18	実践提案② (下田小) 「デジタル教材を活用した『話すこと・聞くこと』の指導」 「メディア・リテラシーの指導」 「デジタルカメラ・パソコンを活用した図画工作科の指導」	高田小
8	23	実技研修会② 「実物と視聴覚機器を活用した理科教育の展開」	北綱島小
9	19	実技研修会③ 「デジタル教材を使った授業づくり」 (帝国書院:デジタル地図帳 東京書籍:算数デジタル教科書)	高田小
10	17	実践提案③ (城郷小) 「映像資料を活用した体験学習・社会科学習の実践」 「音楽管理ソフトを用いて、教室での音楽環境を整える」	高田小
11	21	指導案検討会①	綱島東小
12	19	指導案検討会②	綱島東小
1	30	区公開授業研究会 5年 体育「器械運動(跳び箱運動)」 授業者 下山 裕児 先生	綱島東小
2	27	総会(1年間のまとめ・次年度の活動についての確認)	小机小

## 3. まとめ

研究協議のもち方として、ワークショップなど多くの人が発言できる場を設けた。その結果、活発で積極的な参加の様子が見られた。世話人の校長先生を通じて、デジタル教科書やデジタル地図帳を業者の方から直接紹介していただき、その良さを知ることができた。また、「機材の管理」「校務システムの準備」など、各校の状況を報告しあうことで、役立つ情報を共有しあうことができた。

旭区視聴覚・情報教育研究部

1 研究主題

○ ICTの効果的な活用

～学ぶ意欲の高まりと理解の深まりを目指した授業づくり～

2 研究経過

	月 日	研究・研修内容	会場
①	4月18日(水)	役員選出、年間計画検討、情報交換	鶴ヶ峯小学校
②	5月30日(水)	年間計画の確認 情報交換	鶴ヶ峯小学校
③	6月20日(水)	「実物投影機みエルモン・かけるもんを使った 授業スタイル(応用編)」研修	鶴ヶ峯小学校
④	7月18日(水)	実践提案①(左近山第二小学校) 国語科「リーフレット作り」	鶴ヶ峯小学校
⑤	8月23日(木)	「タブレット端末を用いた授業スタイルの可能性」研修 (若葉台小学校)	若葉台小学校
⑥	9月19日(水)	「デジカメの有効活用 スライドショー 動画編集に挑戦! ～ロイロスコープを使って～&ジャストスマイル ver.5」研修	鶴ヶ峯小学校
⑦	10月17日(水)	指導案検討(善部小学校)	善部小学校
⑧	11月21日(水)	区一斉授業研(善部小学校)	善部小学校
⑨	12月19日(水)	実践提案②(中沢小学校) 「体育科:鉄棒運動 動画 学び合い」	鶴ヶ峯小学校
⑩	1月30日(水)	実践提案③(四季の森小学校) 「理科:月と太陽 TVとインターネットの活用」	鶴ヶ峯小学校
⑪	2月27日(水)	紀要づくり、年度末反省	鶴ヶ峯小学校

3 まとめ

今年度は日々の授業実践につながるICT活用を意識して実践提案や実技研修を進めてきた。下記の内容を中心に、学ぶ意欲の高まりと理解の深まりにつながるICT活用について年間の取り組みの中で確認していくことができた。

\*実際に触れてみる

- ・実物投影機やタブレットなど実物に触れながら研修を進めたことで、機器の特性や効果についての理解が深まった。
- ・区一斉授業研では、45分授業の、どのタイミングでICTを活用するかを検討したことで、導入部分やまとめでの共有化など視覚資料を効果的に用いることで抑揚をつけた授業展開をすることができた。

\*日々の授業を想定して

- ・実践提案では各ICT機器の特性だけでなく、活用の際の児童の反応や実践を通しての変容を研修を通して知ることができた。これからの日々の授業につながる内容となった。

\*新たな機器と使用方法

- ・動画編集ソフトやタブレット端末など、新たなICT活用にも目を向け、将来的な授業スタイルの可能性を視野に入れて研修を深めていくことができた。

## 平成24年度 磯子区情報・視聴覚教育研究部

### 1. 研究テーマ

「児童の情報活用の実践力を高める指導のあり方」

### 2. 研究経過

月日	内容	提案校	司会	記録	会場
4/18	年間計画 研究主題の内容案検討		幹事 屏風浦小	幹事 屏風浦小	浜小
5/30	実践提案	山王台小 さわの里小	汐見台小	根岸小	屏風浦小
6/20	実践提案	森東小 汐見台小	洋二小	杉田小	杉田小
7/18	実践提案	洋二小 磯子小	洋一小	滝頭小	屏風浦小
8/23	夏季実技研修 「電子黒板の活用」	庄戸小 平野先生	岡村小	梅林小	杉田小
9/19	実践提案	洋四小 滝頭小	さわの里小	磯子小	屏風浦小
10/17	実践提案	杉田小 洋三小 洋一小	洋三小	山王台小	杉田小
11/21	一斉授業研指導案検討	根岸小	滝頭小	森東小	根岸小
12/19	一斉授業研指導案検討	根岸小	洋四小	汐見台小	根岸小
1/30	一斉授業研	根岸小	浜小	梅林小	根岸小
2/27	研究のまとめ		屏風浦小	岡村小	屏風浦小

### 3. まとめ

本研究会では、情報活用能力の育成についての研修や各校の情報教育指導計画の紹介、各校における実践例を持ち寄って情報・意見の交換をし、より効果的な指導方法について考察することを中心に活動した。また実践提案は、「報告」で終わらないようにし、それが、他校の今後の実践や一斉授業研究会へとつながるように、より具体的な各校の実態も話題にしてきた。どの学校でも電子黒板の活用に頭を悩ませていたので、夏の研修と一斉研究会で取り上げた。研修・研究を通し、担当者からの発信の素地が出来たのではないかなと思う。

また、来年度にむけ、各校の情報教育計画の見直しや、引き続き電子黒板の活用についても取り組んでいきたい。

横浜市立 屏風浦小学校 遠藤 理恵

# 緑区 情報・視聴覚教育研究部

## 1. 研究テーマ

自ら学び続ける子どもを育てるための、情報・視聴覚教育メディアをいかした学習の推進  
～明日の授業に役立つ教材・機器の活用～

## 2. 研究経過

月/日	主な内容	提案 (A)	実技研修 (D)	司会 (B)	記録 (B)	会 場
4/18	研究主題検討 年間活動計画検討	区幹事 (長津田)		区幹事	区幹事	長津田
5/30	実技研修・情報交換 (運動 会放送)		山下小	十日市場小	山下みどり台 小	長津田
6/20	実践提案・情報交換 (校内 組織・視聴覚部業務)	上山小 緑小		竹山小	十日市場小	長津田
7/18	実技研修・情報交換		霧が丘小	森の台小	竹山小	長津田
8/22	実技研修・情報交換		東本郷小	山下みどり台小	森の台小	長津田
9/19	第1回区一斉授業研指導 案検討 (活動計画)	十日市場		十日市場	幹事	十日市場
10/17	第2回区一斉授業研指導 案検討 (本時展開)	十日市場		十日市場	幹事	十日市場
11/21	区一斉授業研究会	十日市場 (区授業研)		竹山小	森の台小 山下みどり台 小	十日市場
12/19	実践提案・情報交換	新治小 長津田第二 小		十日市場小	山下みどり台 小	長津田
1/30	実技研修・情報交換		中山小	山下みどり台小	十日市場小	中山
2/27	研究のまとめ・反省 来年度役割分担確認	区幹事(長津 田)		区幹事	区幹事	長津田

## 3. まとめ

本研究会では、情報・視聴覚教育機器を活用する中で、効果的な教育活動を実践し、児童一人ひとりを大切に  
にする、わかりやすい授業をめざして活動してきた。各校の実践報告や実技研修などを通して、それらが身  
についてきていると思われる。そして、情報交換等を通して、各校との理解や交流を深めてきた。

これからは、それらをどのようにして各校で他の教師に役立つ情報として提供し、それぞれがよりよい授  
業を作っていくかというのが課題である。

1. 研究主題

児童自らが学び取る力をつけるための、効果的にICTを活用した学習のあり方  
～携わる者すべてのスキルアップをめざして～

2. 研究主題設定の理由

青葉区情報・視聴覚教育研究部会では、これまでも様々な実践・提案・実技研修が行われてきた。各校、子どもの興味・関心を生かした活動をするなかで、基礎・基本が身につくように取り組んできている。

視聴覚機器を使うことにより、興味関心を高めたり、思考の場面を設定したり、理解を深めたり、自分の伝えたいことを表現したりすることで、子どもたちが「自ら学び取る力をつける」ことができると考える。

また、教師側のスキルアップも進めたい。授業の狙いに沿ってどのような視聴覚機器の提示が有効であるかを追究しながら、積極的な情報発信を進めていきたい。視聴覚機器や情報機器の活用の工夫が、実際の授業でどのように活かされ、効果を発揮したのか、児童の変容等も併せて研究に取り組んでいきたい。

さらに、近年、校務用・授業用の双方のパソコンの管理、ウイルス対策、電算化担当、ウェブページの更新等、校務の細分化、一種の専門職化が進んでいる中、各学校で教育の情報化の役割を担っている先生方の悩みは大きい。その課題を解決する身近な情報交換の場として区研を活用するとともに、これまでの研究会でも参考になったという声が多かった実践提案についても、引き続き行っていくことにする。また来年度完全実施となる校務システムの準備が必須条件となっている本年度、研究同様に区情報・視聴覚部員で情報交換や研究を行い、来年度の完全実施に備えていきたい。

3. 研究内容

- 主題テーマに沿った授業実践を通して、効果的で実践的な学習方法を探る
- 情報・視聴覚機材の効果的な活用方法の検討を行う
- 授業に役立つ実践研修を取り入れる

4. 研究方法

- 各校の実践例を持ち寄り、それをもとに意見・情報の交換及び検討を行う
- 記録係が研究会の内容をまとめ、各校の配布する
- 研究紀要は毎回配付の資料をファイルし作成する
- 公開授業の指導案検討を行う
- 研究の推進は幹事がこれに当たり、各校の連絡・調整を行う

5. 年間活動計画

日時	内容①実践提案	担当校	内容②現状報告・情報交換	担当校
4/18 水	役員引継・年間計画・日程等	嶮山		
5/30 水			講習会(校務システム)	元石川・美しが丘東
6/20 水	実践提案	荏田西	現状報告(校務システム)	恩田
7/18 水			実技研(校務システム)	
8/23 木	実践提案	新石川	現状報告(校務システム)	桂
9/19 水	実践提案	奈良の丘・鴨志田緑		
10/17 水	一斉研指導案検討	藤が丘		
11/21 水	一斉授業研	藤が丘		
12/19 水	実践提案	黒須田・さつきが丘		
1/30 水	実践提案	あざみ野第二	現状報告(校務システム)	荏子田
2/27 水	まとめ	嶮山		

6. 年間のまとめ

今年度も、視聴覚機器の効果的活用について、多くの実践提案がなされた。また、校務システムについても、研修会を行うなどして、多くの情報交換を行うことができた。各校に、それぞれの提案、情報を持ち帰り、役立つことができたと思う。

今後の取組としては、本格的に導入となる校務システムを有効活用していくための情報交換や、情報・視聴覚機器の授業への活用や環境整備の工夫などが考えられる。(文責 高司 聡)

平成24年度 鶴見区情報・視聴覚教育研究部

1. 【研究主題】

「子どもの視聴覚機器・情報の活用力を高める学習」のあり方  
～ICT教育の環境整備を通して～

2. 【研究日程】

月 日	内 容	会場
4月18日	年間計画	岸谷
5月30日	研究方針・各校の抱える課題	寺尾
6月20日	◆第1回 実践提案 (機器活用) 潮田「実物投影機の活用～1年生 初めてのノート指導～」 (環境整備) 獅子ヶ谷「要録等電算化にむけた校内ネットワークについて」	獅子ヶ谷
7月18日	◇第1回 研修会 潮田「電子黒板の効果的な活用方法」	潮田
8月23日	◇第2回 研修会 平安 「情報とセキュリティ ～校務システム導入に向けた環境整備～」	平安
9月19日	◆第2回 実践提案 (機器活用) 駒岡「フラッシュ型教材について」 (環境整備) 生麦「子ども同士が関わり合い、一人ひとりに合った指導を目指した環境整備」	生麦
10月17日	◆第3回 実践提案 (機器活用) 末吉「デジタルカメラの活用」 (環境整備) 旭「校務システムに向けた環境整備～LANケーブルの再整備～」	旭
11月21日	第1回 指導案検討	下野谷
12月19日	第2回 指導案検討	下野谷
1月30日	区一斉授業研	下野谷
2月27日	振り返り・役員選出	寺尾

3. 【研究のまとめと今後の課題】

今年度は身近にある視聴覚機器(PC・テレビ・実物投影機・デジタルカメラ)の、有効な使用方法を知りたいというニーズから、電子黒板も含め、より教師が使いやすく、子どもにとっても使いやすい視聴覚機器を日常的に使用する方法を研究した。視聴覚部以外の職員にも「視聴覚機器を使った方が良かった」と言ってもらえるように、簡単かつ効果的な使用方法を校内でアピールするように共通理解を行った。また、環境整備では、校務システム導入に伴う校内ネットワークの構築について研究を行い、研修会を行った。その結果、すでに導入を行っている学校のネットワーク図を基にして、各校で構築を行うことになったが、それなりにスキルが必要であり決して簡単にできるものではないので、各校困っている現状が浮き彫りになった。

今後の課題としては、次のようなことが考えられる。

- 個人情報の取り扱いの面から、各校の現状は個人PCからYYNETに繋げないようになっていることが多いことが分かった。来年度からは校務システム導入に伴い、個人PCにもインターネット環境が必要になっている。すでに校内ネットワークを校務システムに合わせて構築している学校のモデルを例にとり、その接続の仕方について研鑽したが、視聴覚部員だけで行うことが時間的にも知識的にも厳しいという学校がある。
- 現在、当たり前のように高学年で指導されている携帯電話に関するモラルは、小学校の学習で指導する必要があるのか。家庭の責任で持たせるのだから、家庭で指導していくものではないかという意見もある。また、教科等は何になるのか。学年別情報カリキュラムの再考が必要と考えられる。

## 平成24年度 南区情報・視聴覚研究部

### 1. 研究テーマ

「ICT機器を活用した、子どものわかりやすい授業をめざして」

### 2. 研究経過

月日	内容	提案校	会場	司会	記録
4/18	役員選出・年間計画等検討	役員	中村	役員	役員
5/30	年間計画等確認（役員） 情報交換		永田台	役員	役員
6/20	実技研修①（六つ川台小） 「ICTの活用方法」		六つ川台	石川	石川
7/18	実技研修②（大岡小） 「ELMOの活用」 校務システム（南小 伊藤校長先生）		大岡	南	南
8/23 夏期	実技研修③（六つ川西小） 「ポータブルアンプの活用」 南区公開授業研究会指導案検討		六つ川西	藤の木	藤の木
9/19	実践提案①（南吉田） 「書画カメラを使用したノート指導」		南吉田	井土ヶ谷	井土ヶ谷
10/17	実技研修④（太田小） 南区公開授業研究会指導案検討		太田	永田	永田
11/21	南区公開授業研究会指導案検討		六つ川	蒔田	蒔田
12/19	実践提案②（別所小） 「デジタル教科書の活用」		別所	蒔田	蒔田
1/30	南区公開授業研究会（六つ川小）		六つ川	役員	役員
2/27	研究のまとめ （研究集録作成、成果と課題等）		永田台	役員	役員
25年4/	25年度役員選出・年間計画等				

### 3. まとめ

本年度は、ICTを活用することで、どのように子どもの学習に効果が現れるのかを考えながら研究を進めてきた。また、来年度からの校務システムに向けて、南小学校の伊藤先生に指導をいただいたり、部員同士で情報交換を行ったりしてきた。また、昨年度までなかなか取り組むことのできなかった、情報モラルについても、一斉授業研を中心に話し合ってきた。

インターネットやスマートフォンなどを子どもが扱うようになり、またそれを、利用した犯罪が増えている社会で、情報モラルをどのように指導していくべきかが課題にあがった。

来年度の研究では、情報モラルについて話し合っていくこと、また各校の情報交換を密にしていきたい。

# 神奈川県情報・視聴覚教育研究部

## 1 研究テーマ

「情報・視聴覚教材・機器に親しみ、互いに伝え合い、高め合いながら学ぶ子の育成」  
～情報・視聴覚教育、モラル教育のあり方をさぐる～

## 2 研究経過

月・日	会場	内容
4月18日	西寺尾第二	○役員選出、年間計画検討
5月30日	神奈川	○実践提案（池上）「ビデオクリップを利用した学習」 ○情報交換（神奈川）「メディアリテラシー教育について」
6月20日	西寺尾	○実践提案（西寺尾第二）「ショットの共有による調べ学習」 ○情報交換（西寺尾）「校務サーバデータの復旧」
7月18日	白幡	○実践提案（青木）「モラル教育について」 ○情報交換（白幡）「表現のためのソフトウェア～Zuzie～」
8月23日	羽沢	○実技研修 「ジャストスマイル」を有効活用しよう
9月19日	斎藤分	○実践提案（三ツ沢）「情報の正確さを判断しよう」「三ツ沢メニュー」 ○情報交換（斎藤分）「校務システム導入の課題」
10月17日	子安	○実践提案（中丸）「宿泊体験における視聴覚機器の利用」 ○情報交換（子安）「学校ホームページの更新」
11月30日	浦島	○指導案検討
12月19日	浦島	○指導案検討
1月30日	浦島	一斉授業研 「うらしま大すき！なかよし大作戦」 「心と心をつなぎ隊！」 「著作権について考えよう」
2月27日	羽沢	○まとめ、次年度の研究体制について

## 3 まとめ

「授業ですぐに役立つような内容」を意識しながら実践提案を行った。その結果、研究授業だけでなく、参加者が普通の授業でも活用できる実践的な内容となった。

情報交換では、各校の校務での工夫・校務で困っていることを中心に取り上げた。各校の職員室やパソコン室の工夫を紹介してもらうため、会場は情報交換を担当する学校にした。今年度は校務システムについての情報交換も充実させ、悩みを共有しあった。紹介された方法を後日実践する学校もあり、充実した情報交換であった。

授業研究では、授業者が著作権や情報モラルについて正確な知識をもち、計画的に支援して行くことで、子ども達の情報モラルやマナーの質を高め、有効に情報活用できることが討議された。

来年度も「研究授業に役立てる」「すぐ実践できる」という視点で実践提案や情報交換を行い、参加者が授業や校務に生かせる内容の研究をしていきたい。

羽沢小学校 鳥井裕子

## 西区視聴覚・情報教育研究部

### 1 研究テーマ

『主体的な学びにつながる情報機器の活用』

### 2 研究経過

月日	研究内容	会場校
4月18日	研究主題・研究計画について 組織づくり	戸部小
5月30日	研究計画確認 実践提案 宮谷小学校 理科「天気と情報—天気と変化—」 図工 「デジカメで おもしろびじゅつかん」	宮谷小
6月20日	実践提案 西前小学校 特別活動 「ショートムービー作りをしよう」	西前小
7月18日	実践提案 平沼小学校 特別活動 「平沼小学校ホームページの子どもによる運用について」 一本松小学校 理科 「人の体のつくりと働き」 体育 「機械運動 とび箱」 生活科 「じょうずに おはなしできたよ」	平沼小
8月23日	実技研修 日立ソリューションズ 電子黒板の操作方法	戸部小
9月19日	実践提案 戸部小学校 総合 「スタンドグラス」 稲荷台小学校 家庭科「生活に役立つ物を作ろう」 生活科「もっと まちをしりたいな まちたんけん」	戸部小
10月17日	中区・西区合同一斉授業研究会 指導案検討	山本小
11月28日	中区・西区合同一斉授業研究会	山本小
12月19日	実践提案 東小学校 「低学年の視聴覚機器活用について」	東小
1月29日	実践提案 富士見台小学校 「協力し合って、ルールを守って、みんな楽しいタワーボール」	富士見台小
2月27日	研究のまとめ 次年度に向けて	戸部小

### 3 まとめ

今年度も、上記の内容で西区ほぼ全校の実践事例及び実技研修を中心に研究を進めた。今年度は、前年度の情報機器の活用場面をより具体的にしてきた。また、授業のどの場面で使用するのか。視聴覚機器が活用されることで、子どもがどのように変わったのか、どんな効果があったのか、実際の授業をもとに考えてきた。各校の提案内容は、視聴覚機器を使うことでねらいに迫るものから、操作活動を取り入れることで視聴覚としてのアプローチをはかる意欲的なものまで様々な提案がなされた。どの提案にも共通して言えることは、子どもの視点に立ち、子どもの考えに則した学習展開を目指していたということである。

8月の実技研修では、日立ソリューションの方を講師として招き、電子黒板の基本的な操作方法から応用など多くの技能を学ぶことができ、とても有意義な研究ができた。

課題として、近年の情報化社会の中では、小中学生の携帯電話やインターネットの利用が高まり、問題も生じている。あふれる情報の中で子どもたちが情報によって被害に遭わないために、また、加害者にならないためにも、情報モラルについての指導が不可欠である。今年度は情報モラルの研修、情報の共有が不足していた。今後研修や提案を含め、幅広く研究することも考えたい。

まだまだ、様々な課題や反省などが山積しているが、研究を通じて、主体的な学びにつながる情報機器の活用、視聴覚機器及び視聴覚教材の有用性や活用法を追究していきたい。

(横浜市立戸部小学校 羽田野 雄一)

# 金沢区情報・視聴覚教育研究部

1. 研究テーマ「主体的に情報をつかみ、意欲的に情報をいかして学習していく児童を目指して」

2. 研究経過

月 日	内 容	会 場
4月18日	年間計画、アンケート実施	釜利谷東小
5月30日	実践提案①六浦南小（機器活用）「社会」※校務システム研修①	〃
6月20日	実践提案②並木第四小「道徳:情報モラル」※校務システム研修②	〃
7月18日	実践提案③能見台南小「特別活動:クラブでの機器活用」	〃
8月23日	実技研修①釜利谷小「音楽編集ソフトを使って」※校務システム研修③	釜利谷小
9月19日	実践提案④六浦小「学校ホームページの簡単な作り方」 ※校務システム研修④ 一斉研事前検討①	釜利谷東小
10月17日	一斉研事前検討②	〃
11月21日	区一斉授業研究会 2年国語:「おもちゃの作り方」 3年社会:「おいしいよパン屋Y」 5年算数:「図形の角を調べよう(図形の角)」	小田小
12月19日	一斉研事後報告	〃
1月30日	実技研修②富岡小	富岡小
2月27日	研究のまとめ・次年度役員決定	釜利谷東小

3. まとめ

〈成果〉

本研究会では、教職員がさまざまな情報手段の取り扱いに親しみ、適切に活用できるよう、インターネット・WEBメールの有効な利用方法や情報モラルについての指導方法、及び各教科等の中で必要と思われる基本的な操作の指導方法や視聴覚機器を利用した有効な支援の在り方等を研究してきた。また、デジタルコンテンツ（教科書）や放送機材の積極的な活用を試み、学習活動における視聴覚資料や教育機器など教材・教具の効果的な活用方法を探ってきた。また、校務システム導入に向けて、能見台小の堀川校長先生よりご指導を賜り、校務システムについて毎回情報交換を行い、研鑽を積むようにしてきた。

〈課題〉

機器の活用を重点に活用してきたことで、それぞれの機器の知識は深めることができているが、実際の授業での活用についてはまだまだ研鑽する必要があると考える。次年度は実践提案をより明確にしていこうと思う。

横浜市立釜利谷西小学校 遠藤 義臣

## 瀬谷区情報・視聴覚教育研究部

### 1 研究主題

自ら学ぶ力を育てるための学習の展開  
～多様なメディアを活用した情報活用能力の育成～

### 2 研究経過

本研究会では、今までの研究の蓄積を生かしながら、来るべき社会に主体的に対応できるよう「自ら学ぶ力」をもった子どもの育成を目指しての研究を推進してきた。「自ら学ぶ力」の育成のために、視聴覚教育に果たすべき役割、可能性は限りないものがあると考え、小学校のカリキュラムの中で情報・視聴覚教育メディアを授業にどう生かし活用能力を育成していくかを探ってきた。そこで、情報・視聴覚教育メディアを効果的に用いるためには教師の知識技能の向上が課題だと捉え、実践提案と授業研究会と併せて、実践的な実技研修も交えながら本年度も研究を進めてきた。

月	日	内容	会場校
4	21	年間計画作成 役員決め 役割分担 部長	瀬谷
5	30	実践提案 「理科『天気の変化』実感を伴った理解を図るために」 大門小学校 木下 順由先生	大門
6	20	実践提案 「スピーチの練習の視聴覚機器の活用 ～より客観的に自分のスピーチを振り返るために～」 原小学校 本間 嘉明先生	原
7	18	実践提案 「日常の授業でのOHC(実物投影機)の活用」 三ツ境小学校 林 大樹先生	三ツ境
8	23	実践提案 「番組作りをしよう(放送員会)～意欲的な取りくみをめざして」 南瀬谷小学校 藤井 智和先生	南瀬谷
9	19	授業研事前検討会① 二つ橋小学校 体育科「はげしく〇〇する(表現)」 高木 和雄先生 算数科「買い物名人になろう(個別支援)」 金井 大先生・佐々木 静先生・古越 朋子先生	二つ橋
10	17	授業研事前検討会② 二つ橋小学校 体育科「はげしく〇〇する(表現)」 高木 和雄先生 算数科「買い物名人になろう(個別支援)」 金井 大先生・佐々木 静先生・古越 朋子先生	二つ橋
11	21	区授業研究会 二つ橋小学校 体育科「はげしく〇〇する(表現)」 高木 和雄先生 算数科「買い物名人になろう(個別支援)」 金井 大先生・佐々木 静先生・古越 朋子先生	二つ橋
12	19	実践提案 相沢小学校 「委員会活動における視聴覚機器の活用について」 古賀 誠先生 国語「豊かな言葉の使い手になるために～検索の仕方を向上させるためには～」 藤澤 光徳先生	相沢
1	30	実践提案 阿久和小学校 理科「OHC(実物投影機)を用いた顕微鏡の使い方の 指導について」 勝村 佑輔先生	阿久和
2	27	研究のまとめ 次年度に向けて 部長	瀬谷

### 3 まとめ

各学校における実践・実技提案の機会を多く設けることで、より多くの研究部員が意欲的に研究会に参加し、意見交流を深め、研究テーマに迫る研究活動を進めていけることにつながったと考えられる。また、具体的な提案により、情報・視聴覚メディアを活用し、より児童の学習を効果的に進めることができるか、身につける力がどのようなものになるか見取ることができた。これらのことから、情報・視聴覚メディアの使い方を教師側が理解し効果的に使用することの必要性から、書画カメラやビデオカメラ、大型テレビなどの具体的な活用方法の意見交換なども行うことができた。

そして、事務処理の効率化を図るための校務システムの導入状況や各校の取り組みについても情報交換を行った。

次年度からも引き続き、自ら学ぶ力を育てる学習展開のための情報活用能力の育成の実践研究に取り組み、工夫を図っていきたい。

上瀬谷小学校 大木 洋平



平成24年4月27日発行  
第109号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・4月号

## 平成24年度始まる！

### 定期総会・講演会・オリエンテーション開催

平成24年4月25日（水）に、神奈川県立かながわ労働プラザ（エルプラザ）において、「横浜市小学校情報・視聴覚教育研究会」総会並びに講演会・部会オリエンテーションが開催されました。

今年度から横浜市教育文化センターが今までのように使用できなくなり、担当の世話人校長先生始め各方面の方々には、とてもお骨折りいただいて会場等が確保されたことを感謝申し上げます。

今年度始めの総会でしたので、昨年度の事業報告や決算報告、今年度の事業計画や予算等が審議され、賛成多数により可決了承されました。

また、講演会では、横浜市教育委員会指導企画課の宮野係長にご講演をいただき、横浜市の情報教育の現状とこれからの見通しについてお話をいただきました。



授業デザイン部会



スキルアップ部会

その後、部会オリエンテーションが開催されましたが、今年度から部会名が「授業デザイン部会」と「スキルアップ」部会に名称が変わりました。それぞれの部会において、今年度の研究内容や会場を決定しました。

### 春の懇親会

研究会終了後、夕方から中華街において「春の懇親会」が、開催されました。

本年度は、2名の方々が校長先生に昇進され、おめでたい席となりました。

また、新しい市研会員や久しぶりに参加された会員の方々も参加され、賑やかな会となりました。

私たちの大先輩でもあるOBの方々も、みなさんお元気そうで、なによりでした。



懇親会にて

### 次回研究会について

次回の研究会は、5月9日（水）15時30分より開催予定です。今年度から、市教育文化センターが使用できなくなり、それぞれの部会ごとの開催となり、月によっては多少不便を感じられる会員の方々もおられるかもしれませんが、その分、内容を深め、市の研究会としてふさわしい研究活動をしていく考えです。

それぞれの先生方におかれましては、お忙しい毎日だとは思いますが、多くの先生方の参加を心よりお待ちしております。

詳しくは、後日の研究会開催案内をご覧ください。

参加された先生方には、きっと有意義な一日になることをお約束いたします。

それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。



平成23年5月25日発行  
第110号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・5月号

## 5月の研究会

### 実践提案を通じた研究活動

平成24年5月9日(水)に、横浜市立杉田小学校において、横浜市小学校教育研究会、情報・視聴覚教育部会「授業デザイン部会」「スキルアップ部会」が開催されました。

「授業デザイン部会」では、平野大二郎先生(庄戸小)による「科学的な思考・表現を深めるための電子黒板」というテーマでの提案がありました。3年生の理科の「豆電球にあかりをつけよう」という単元での提案で、電子黒板や実物投影機、ワイヤレスタブレット等の使用による授業の様子を紹介していただきました。

「スキルアップ部会」では、須永昌男先生(谷本小)による「学習環境と一体化した情報機器の管理」というテーマでの提案がありました。

本年度は、研究会としてのさらなる発展のために、部会編制を行い、内容を精選して、より良い研究活動や指導案検討、また、役に立つ実践提案等々を行っていきたくと考えております。また、研究会場は、今までの教文センターが使用できなくなっていますので、横浜市内の各学校になり、横浜市でも、交通の便が良くない学校から参加される会員の皆様には、ご不便をおかけするかも知れませんが、なにとぞご了承くださいませようお願いいたします。忙しい毎日だとは思いますが、月に一度の市研日には、一人でも多くの先生方と共に、よりよい研究活動ができればと思います。よろしく願いいたします。



授業デザイン部会

### <第一次研究大会>

5月23日(水)15:00から県立音楽堂において、横浜市教育研究大会の第一次



第一次大会会場にて

大会が開催されました。市教育研究会や教育委員会の挨拶、各区や各研究会の会長の紹介のあと、本年度は、石巻市より昨年の3.11の東北大震災の時に、石巻市の門脇小の校長であった鈴木洋子先生をお招きしての講演を拝聴する機会を得ました。当日の学校の様子や地域の様子、避難の様子やその後の学校のことまで、詳しくお話されると共に、スライドでの様子は、とても衝撃的な場面もありました。日頃からの防災教育の大切さや万一の時の心構えや行動についても考えさせられる内容でした。

### <次回研究会について>

次回の研究会は、平成24年6月6日(水)、午後3時30分開催予定です。

場所は、杉田小学校(JR新杉田下車8分、京急杉田下車5分)です。「講演会」を予定しております。詳しくは、6月の研究会の開催案内をごらんください。それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。

※この文書は、各区提出会員名簿にもとづいて送付しております。宛先、氏名に誤りがありましたら、お知らせください。



平成24年6月11日発行  
第111号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会  
研究部会だより・6月号

## 6月の研究会

### 講演会

平成24年6月6日(水)に、横浜市立杉田小学校において、横浜市小学校教育研究会、情報・視聴覚教育研究部会「授業デザイン部会」「スキルアップ部会」による6月の合同研究会が開催されました。



講演会会場(杉田小)にて

今回は、放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター教授中川一史先生の「コミュニケーション力を育む ICT を活用した授業デザインとは？」というテーマでの講演会が行われました。

ICT を授業に活用する様子を通して、授業の効果的な展開の仕方や海外の学校の様子など多岐にわたっての、とても興味深いお話でした。

その中でも私が一番心に残っているのは、授業の展開の中における「からみとゆらぎ」ということでした。以前から「人・もの・こと」にこだわって研究を進めてこられた中川先生だからこそなのかなと強い印象を受けました。これらの事は、毎日の教室でのより良い授業にも活かすことができ、授業の質の向上にも役立つと思えるものでした。

### 夏季休業中の市研究会員研修会案内

月 日	時 間	場 所	内 容
7月27日(金)	13:00～17:00	県立地球市民かながわプラザ多目的室 (JR 根岸線「本郷台」駅改札出て左すぐ)	「カメラマンになろう」 学校においてビデオ撮影や写真撮影をするときに気をつけることや便利な使い方を研修します。
7月30日(月)	13:00～17:00	県立地球市民かながわプラザ多目的室 (JR 根岸線「本郷台」駅改札出て左すぐ)	「ICT を活用した授業」 (株)インテルの協力により、授業に活かす ICT の方法や技術等について研修します。

### <次回研究会について>

次回の研究会は、平成24年7月4日(水)、午後3時30分開催予定です。  
場所は、杉田小学校(JR 新杉田下車8分、京急杉田下車5分)です。部会別の会員研究を予定しております。詳しくは、7月の研究会の開催案内をごらんください。それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。

※この文書は、各区提出会員名簿にもとづいて送付しております。宛先、氏名に誤りがありましたら、お知らせください。



平成24年7月11日発行  
第112号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・7月号

## 7月の研究会

### 会員研究

平成24年6月6日(水)に、横浜市立杉田小学校において、横浜市小学校教育研究会、情報・視聴覚教育研究部会「授業デザイン部会」「スキルアップ部会」による7月の研究会が開催されました。



授業デザイン部会

授業デザイン部会は、岡田貴彦先生(茅ヶ崎小)から「自分にあった方法で生き活きと表現する学習を目指して～教育メディアの活用～」というテーマで「愛川体験学習で学んだことを保護者と3年生に伝えよう」という内容での学習の様子を提案していただきました。体験学習の様子や思い出を児童の言葉で表現して、学習に取り組む姿を通しての内容は、多くの参加者から賞賛の意見やより良い活動に向けての活発な意見が出されました。

スキルアップ部会では東京理科大学の渡邊均氏、マラット・ザニケエフ氏、東本崇仁氏によ

り「情報通信システムの仕組みの理解から展開する情報モラル教育の試み」と題しての様子を提案されました。それによると、小学生や中学生を対象とする情報通信のマナー(倫理)に関する教材は多いが、現状では、基本的な仕組みの理解が十分でないために、ややもすると禁止的な項目のみになり勝ちであり、情報通信の基本的な仕組みを理解することで、情報モラルに関する理解も深まり、新たな技術への対応力など、広い意味でのリテラシー養成にも有益ではないかということでした。たしかに、基本的なことをしっかりと理解し、それらを理解した上で、新しい情報機器をより良く活用するためには、まずはどのようなことをすべきかを知ることが、大切なことだという印象を持ちました。また、希望があれば、どこの学校へでも出向いてたくさんのタブレット端末も一緒に持って行って、実際に指導をしてくれるということでしたので、興味のある方は、是非連絡をしてみられるとよいのではないかと思います。



スキルアップ部会

### <次回研究会について>

次回の研究会は、平成24年9月5日(水)、午後3時30分開催予定です。

場所は、杉田小学校(JR新杉田下車8分、京急杉田下車5分)です。二部会合同の会員研究での「中間発表会」を予定しております。詳しくは、9月の研究会の開催案内をごらんください。それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。

※この文書は、各区提出会員名簿にもとづいて送付しております。宛先、氏名に誤りがありましたら、お知らせください。



平成24年 9 月 7 日 発行  
第 1 1 3 号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・9月号

## 夏休みが終わって

### 県夏季特別研修会

平成24年8月6日(月)に、川崎市中原市民館において神奈川県放送教育・視聴覚教育合同夏季特別研修会が開催されました。



午前中は、全体会が行われ、開会行事や基調講演がありました。基調講演では、NHK 放送文化研究所専任研究員の渡辺誓司氏による「デジタル時代の学校教育とメディアを考える」という内容での講演が行われました。

午後からは各分科会に分かれての研究発表が行われました。第1講座は放送教育、第2講座は視聴覚教育、第3講座は情報活用教育についての発表でした。横浜からの発表は、吉田先生(東汲沢小)による「メディアと上手にかかわり、効果的に発信できる力を育む」という内容での発表が第1講座の放送教育で行われました。

当日は、途中から豪雨で時折雷鳴も轟く不安定な天気でしたが、会場は県下各地から参加された方々の暑い熱気につつまれていました。

### 9月の研究会

#### 夏季特研会場入口にて

長いようで、過ぎてみれば短かく感じられた夏休みは終わりましたが、まだまだ暑い残暑が予想される今日この頃です。会員の皆様は、夏休みを元気にお過ごしになったことと拝察いたします。



#### スキルアップ部会

今回は、「中間発表会」ということで、各部会からのこれまでの研究発表が行われました。「授業デザイン部会」からは、鳥越先生(北方小)の提案で、平野先生(庄戸小)の理科の授業や岡田先生(茅ヶ崎小)の総合の授業における機器の活用や多様な表現の工夫の経験についての発表がありました。「スキルアップ部会」からは、須永先生(谷本小)の提案で、基礎講座やサーバーの活用、校内ICT研修、情報機器の活用についての発表から、授業において言葉で説明しづらいことも映像から危険などを考えることができるなどのことが発表されました。



#### 授業デザイン部会

### <次回研究会について>

次回の研究会は、平成24年10月3日(水)、午後3時30分開催予定です。

場所は、「授業デザイン部会」は杉田小学校において開催いたします。また、「スキルアップ部会」は、いぶき野小学校において開催いたします。

詳しくは、10月の研究会の開催案内をごらんください。

それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。



平成24年10月8日発行  
第114号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・10月号

## 秋になって・・・

### 10月の研究会

平成24年10月3日(月)に、横浜市情報・視聴覚教育研究会が開催されました。



公開授業指導案検討会(杉田小にて)

今回、横浜市立杉田小学校では、「授業デザイン部会」、横浜市立いぶき野小学校では、「スキルアップ部会」が開催されました。

「授業デザイン部会」では、12月に庄戸小にて開催される公開授業研究会の指導案の検討が行われました。

今回の授業研究会は、平野先生による理科の授業が予定されています。内容は4年生の理科「もののあたまのり方」という単元です。

市の研究主題「ICTを活用して、子どもたちのコミュニケーションアップ」の中でも、部会テーマの「教育メディアを効果的に活用する授業デザイン」とは、どうあるべきか、また、どうあれば効果的な活用が図れるのかと

いう視点から、色々な試みが行われる予定です。

「スキルアップ部会」では、伊藤裕哉先生による「校務用サーバの活用について」についての提案発表が行われました。

### 懇親会のお知らせ

やっと暑かった夏が終わり、一日一日と涼しさが感じられるようになりました。市研究会では、毎年春と秋に中華街にて懇親会を開催しております。今年も、12月5日(水)の午後7時から関帝廟前のライシャンソン酒家において、懇親会を開催する予定です。お忙しいとは思いますが、日々の活動の慰労と会員のみなさまの懇親を兼ねて行う予定ですので、ご参加をよろしくお願いいたします。参加申込書は、11月上旬に学校宛に送付予定です。もし、11月中旬を過ぎても自分には届いていないという場合には、学校内の情報視聴覚担当に聞いていただければと思います。全校配布で送付する予定です。また、校長先生ならびに副校長先生方への声かけもしていただけたらと思います。

### <次回研究会について>

次回の研究会は、平成24年11月7日(水)、午後3時30分開催予定です。

場所は、「授業デザイン部会」は杉田小学校において開催いたします。また、「スキルアップ部会」も同じく杉田小学校において開催いたします。

内容等については詳しくは、後日送付の11月の研究会の開催案内をごらんください。それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。



平成24年11月12日発行  
第 1 1 5 号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・11月号

## 秋深し・・・

### 11月の研究会

平成24年11月7日(水)に、横浜市情報・視聴覚教育研究会が開催されました。今回は、会場が、横浜市立杉田小学校となり、「授業デザイン部会」と「スキルアップ部会」が開催されました。

「授業デザイン部会」では、12月に庄戸小にて開催される公開授業研究会の指導案の第2回目の検討会が行われました。

今回の授業研究会は、平野先生による理科の授業が予定されています。内容は4年生の理科「ものあたたまり方」という単元です。

市の研究主題「ICTを活用して、子どもたちのコミュニケーションアップ」の中でも、部会テーマの「教育メディアを効果的に活用する授業デザイン」とは、どうあるべきか、また、どうあれば効果的な活用が図れるのかという視点から、色々な試みが行われる予定です。



授業デザイン部会（杉田小にて）



スキルアップ部会（杉田小にて）

「スキルアップ部会」では、須永先生（谷本小）による「情報視聴覚担当の1年間の仕事内容と計画的な進め方」というテーマでの提案発表が行われました。各校の情報視聴覚担当の方々への参考になる事柄も多く、明日からすぐに活かせる内容もあり、各校の担当者にはとても参考になったと思います。

### 懇親会のお知らせ

11月となり一段と朝夕の涼しさが感じられるようになり、北国からは、初雪や初氷のニュースがテレビの画面を賑わすようになりました。

前回もお知らせしましたが、懇親会のお知らせをいたします。市研究会では、毎年春と秋に中華街にて懇親会を開催しております。今年も、12月5日(水)の午後7時から関帝廟前のライシャソン酒家において、懇親会を開催する予定です。お忙しいとは思いますが、日々の活動の慰労と会員みなさまの懇親を兼ねて行う予定ですので、ご参加をよろしく願いたします。参加申込書は、すでに発送済みです。もし、まだ自分には届いていないという場合には、学校内の情報視聴覚担当に聞いていただければと思います。全校配布で送付しましたし、個人名宛でも送付いたしました。また参加申し込みを送付されるときには、校長先生ならびに副校長先生方への声かけもしていただけたらと思います。

### <次回研究会について>

次回の研究会は、平成24年12月5日(水)、午後1時40分開催予定です。場所は、横浜市立庄戸小です。「授業デザイン部会」と「スキルアップ部会」の合同の公開授業研究会です。

内容等について詳しくは、後日送付の12月の研究会の開催案内をごらんください。それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。



平成24年12月10日発行  
第116号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・12月号

## 公開授業研究会

### 平成24年12月研究会

師走の風に、寒さも一段と増してきたように感じられる今日この頃です。会員の皆様は、各学校において個人面談や作品展などに忙しい毎日を送っておられることでしょう。



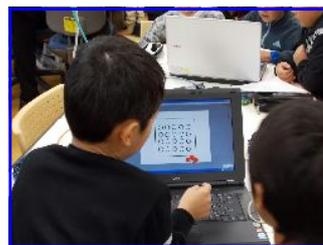
校門にて

さて、平成24年12月5日(水)に横浜市情報・視聴覚教育研究会が開催されました。

今回は、公開授業研究会が行われました。

今年度は、「授業デザイン部会」の平野大二郎先生(庄戸小)の理科の授業で4年「もののあたたまり方」の単元での授業を公開していただきました。当日は、

メディアセンターに集まった子どもたちがパソコンを活用して、考えをまとめたり発表したりしました。また、先生



パソコンを活用して

による書画カメラやプロジェクターを活用した実物提示もあり、興味深く熱心に授業に取り組む児童が印象的でした。その中でも、児童が発想を活かして予想したことをアニメーションで生き生きと提示発表する児童の様子が見られました。

授業後の研究会では、ファシリテーターを中心として、各グループに分かれた話し合いがもたれ、それぞれのグループでの授業に対する様々な意見を発表したり、記録したりしてまとめました。その後、みんなのグループごとに発表して、講師として来て下さいました板倉千鶴指導主事(北部教育事務所)からの指導をいただきました。授業をされた平野先生を始めとして、参加された先生方にとっても、とても有意義な時間を過ごすことができたと思います。



懇親会会場にて

### 懇親会

研究会終了後、夕方より中華街において本年度の会員の慰労や親睦を図るために「懇親会」が開催されました。

本年度の研究授業者・発表者・世話人校長や教育委員会、OB等との懇親も兼ねて行われ、とても温かい雰囲気の中、研究会のさまざまなことが、話題になりました。

### 次回研究会について

次回の研究会は、1月16日(水)15時30分より、「授業デザイン部会」と「スキルアップ部会」は、共に杉田小学校にて開催を予定しており、両部会の合同での開催となる予定です。内容等については、次回の研究会の案内をご覧ください。

また、来年度へのよりよい活動へ向けて、ぜひご参加のうえ、研究活動についてのご意見をいただければと思います。

お忙しい毎日だとは思いますが、多くの先生方の参加を心よりお待ちしております。

参加された先生方には、きっと有意義な一日になることをお約束いたします。

それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。



平成25年1月21日発行  
第117号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・1月号

## 合同研究会

### 平成25年1月研究会

「新年あけまして、おめでとうございます」今年も去年に増してより良い年になるとよいですね。



研究会の会場にて

さて、平成25年1月16日（水）に横浜市情報・視聴覚教育研究会が開催されました。

今回は、「授業デザイン部会」と「スキルアップ部会」の合同研究会が杉田小を会場に行われました。

研究会開催の案内にもありましたように「Y Y N E Tの更新内容の紹介」や「情報機器を使った授業実践の紹介と検討」ということで、NTTドコモやエプソン、エルモなどの会社から、最新式の機器の実践紹介が行われました。今までできなかったことができるようになった新しい技術や内容には、一見の価値のあるものばかりでした。また、横浜市の学校での

「校務システム」についても、現状が紹介され、それに伴う部員からの様々な質問にも、一つ一つ丁寧に答えていただけました。その後、実際にそれぞれの機器を手に取り、使用方法や使ったときの印象をそれぞれ体感することができました。ウルトラブックといわれるノートパソコンやタブレット型のパソコン、新型実物投影機の動画の記録機能などそれらの一つ一つがよい研修になったと思いますし、技術の日進月歩の進化に改めて驚きました。

### よりよい研究会をめざして

平成25年の1月を迎えて、そろそろ4月からの研究会の方向を考える時期になりました。時代と共に情報視聴覚機器も飛躍的な進歩を遂げ、昔では考えられなかったことができるようになりました。しかし、変わらないものや変わってはいけないものもあるでしょう。市研究会に参加されたことで、分かったこともあると思います。4月からの活動に向けて、研究会を運営する側もやってみたいと思われている方は、是非とも役員に声を掛けてください。だれでも最初は初心者です。一緒に研究を深めていけると私たちも嬉しいです。一緒に活動をしませんか。

### 次回研究会について

次回の研究会は、2月13日（水）15時30分より、「授業デザイン部会」と「スキルアップ部会」による今年度の研究発表会（二次大会）を予定しております。場所は、「神奈川近代文学館 中会議室」です。

来年度へのよりよい活動へ向けて、ぜひご参加のうえ、研究活動についてのご意見もいただければと思います。

お忙しい毎日だとは思いますが、多くの先生方の参加を心よりお待ちしております。参加された先生方には、きっと有意義な一日になることをお約束いたします。

それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。



平成25年2月18日発行  
第118号  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会

研究部会だより・2月号

## 2月の研究会

### 県教育研究会中央大会横浜大会

平成25年2月6日(水)に「神奈川県小学校教育研究会中央研究大会横浜大会」が開催されました。



研究会の会場にて

今回は、午前中が神奈川県立音楽堂での全体会や記念講演があり、午後からは、横浜市立本町小学校にて分科会が開催されました。

第13分科会の視聴覚教育研究会では、二つの発表があり、一つは川崎市立土橋小学校の椎名美由紀先生による「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして～メディア活用で育てる情報活用能力、メディア活用で伸ばす確かな学力～」という研究主題の提案発表がありました。川崎市では、情報教育研究会が視聴覚教育研究会と図書館教育研究会が一緒になったものとしてあり、そこからの発表でした。

もう一つは、横浜市立庄戸小学校の平野大二郎先生による「ICTを活用して、子どもたちのコミュニケーション力アップ」という研究主題での発表がありました。これは、今年の平野先生が行った市教育研究会授業デザイン部会での公開授業研究会のことに考察を加え、それから考えられる子どもたちの情報活用能力の向上に関する提案でした。

当日は、県下各地からたくさんの方々が参加されて、熱心な討議が続けられました。提案された先生、役員の先生方、講師の先生方、本当にご苦労様でした。そしてありがとうございました。

### 二次大会開催

平成25年2月13日(水)に港の見える丘公園にある「神奈川近代文学館」において、「横浜市小学校教育研究大会二次大会 第55回横浜市小学校情報・視聴覚教育研究大会」が開催されました。

今回の研究発表では、「授業デザイン部会」から「教育メディアを効果的に活用し、コミュニケーション力を育む授業デザイン」というテーマで吉田圭一先生(東汲沢小)が発表され、「スキルアップ部会」からは、「情報機器の日常的な活用と円滑な運用をめざして」というテーマで須永昌男先生(谷本小)が発表されました。今年度一年間のまとめとしての発表で、研究会のこれからも見据えた内容のすばらしいものでした。

### 次回研究会について

次回の研究会は、3月6日(水)15時00分より、横浜市技能文化会館603号室にて「臨時総会」と「情報・視聴覚教育を語る会」を開催いたします。

今回は今年度最後の研究会となります。「情報・視聴覚教育を語る会」では、本年度担当の保土ヶ谷区と瀬谷区の研究会の様子も発表されます。お忙しい毎日だとは思いますが、多くの先生方の参加を心よりお待ちしております。

参加された先生方には、きっと有意義な一日になることをお約束いたします。

それでは、次回の研究会でお会いいたしましょう。

## 会員名簿

(24年5月19日現在)

### ○校長

	区	校名	氏名
1	磯子	杉田	岩崎 良之
2	戸塚	下郷	赤村 晋
3	戸塚	東戸塚	鈴木 国広
4	緑	竹山	笥 宏彰
5	緑	長津田第二	田中 芳夫
6	旭	鶴ヶ峰	芳原 勝美
7	都筑	茅ヶ崎	林 弘之
8	青葉	谷本	田中 公明
9	青葉	恩田	徳江 武司

### ○副校長

	区	校名	氏名
1	緑	いぶき野	宇佐美 公敏
2	鶴見	新鶴見	高松 一彦
3	旭	万騎が原	大堂 隆
4	磯子	山王台	田屋 敏彦
5	都筑	牛久保	工藤 浩之
6	都筑	荏田	二瓶 庄吾
7	港南	日野南	青木 勇

### ○授業デザイン部会

	区	校名	氏名	学年	教科
1	金沢	並木中央	関口 耕一郎	1年	算数
2	金沢	小田	豊田 亮	5年	算数
3	港北	新吉田	高橋 義範	1年	体育
4	港北	師岡	楠田 融	1年	体育
5	港北	下田	朝倉 慶顕	6年	体育
6	港北	大豆戸	石井 俊士	4年	国語
7	港北	港北	近藤 睦	5年	理科
8	港北	大曽根	佐藤 光範	6年	体育
9	港北	新吉田第二	伊藤 貴雄	3年	国語
10	緑	長津田	倉井 敬文	少人数	算数
11	緑	緑	小池 智宏	5年	社会
12	鶴見	潮田	益田 洋一	4年	
13	中	本牧南	曲尾 達希		

14	中	北方	鳥越 和貴	4年	国語
15	中	大鳥	柴田 順幸	4年	体育
16	都筑	川和	木津 正晴	6年	理科
17	都筑	茅ヶ崎	高野 健一	少人数	算数
18	都筑	茅ヶ崎	岡田 貴彦	4年	社会
19	都筑	都田	石田 潤	3年	算数
20	都筑	都田	松山 清彦	6年	体育
21	港南	日野南	川口 翔	1年	体育
22	港南	南台	保科 彰利	6年	算数
23	港南	吉原	小野里 勇貴	6年	理科
24	港南	日限山	齋藤 和広	4年	理科
25	港南	日限山	三長 仁	6年	社会
26	保土ヶ谷	権太坂	鈴木 輝美	6年	算数
27	保土ヶ谷	権太坂	伊藤 由美子	1年	算数
28	保土ヶ谷	藤塚	千葉 教生		
29	保土ヶ谷	桜台	程島 京介	2年	生活
30	保土ヶ谷	桜台	加藤 高祥	1年	体育
31	保土ヶ谷	桜台	溝口 功一	4年	社会
32	神奈川	幸ヶ谷	富士村 拓郎	6年	算数
33	神奈川	幸ヶ谷	金子 真也	1年	理科
34	神奈川	南神大寺	渡辺 喜男	4年	社会
35	南	別所	野尻 亮	6年	社会
36	泉	和泉	須藤 こずえ	音楽専科	音楽
37	泉	いずみ野	森下 崇司	3年	社会
38	旭	左近山第二	安富 直樹	4年	
39	旭	善部	猪山 慶	5年	
40	青葉	元石川	宮野 庸平	2年	図工
41	青葉	奈良の丘	武井 三也	5年	算数
42	青葉	藤が丘	武藤 幸一	4年	社会
43	栄	千秀	堀 彩香	4年	
44	栄	庄戸	平野 大二郎	4年	理科
45	栄	上郷	神崎 健介	4年	体育
46	栄	桜井	三森 康央	4年	体育
47	栄	笠間	奥村 拓也	5年	算数
48	栄	笠間	外山 壮一	6年	社会
49	磯子	屏風浦	遠藤 理恵	2年	生活
50	戸塚	深谷台	北條 完二	4年	理科
51	戸塚	東汲沢	吉田 圭一	6年	体育
52	戸塚	矢部	小松 泰	3年	

○スキルアップ部会

	区	校名	氏名	学年	教科
1	金沢	並木中央	海老原 眞	少人数	理科
2	金沢	並木第四	渡辺 史明		
3	金沢	富岡	榊 信喜	2年	生活
4	金沢	文庫	野村 信嗣	3年	体育
5	金沢	釜利谷西	遠藤 義臣	1年	算数
6	港北	小机	田中 浩二	5年	音楽
7	港北	高田	仲 美記夫	少人数	算数
8	港北	篠原	浅野 真弘		算数
9	港北	菊名	片岡 恵理子	4年	算数
10	港北	新田	田島 馨	2年	算数
11	港北	駒林	益森 幸一	個別	社会
12	港北	港北	山本 典正	4年	体育
13	港北	新吉田第二	伊藤 貴雄	3年	国語
14	港北	太尾	大野 陽士	2年	図工
15	緑	いぶき野	伊藤 裕哉	6年	理科
16	緑	鴨居	旭岡 義如	4年	
17	緑	竹山	原田 幸太	4年	理科
18	緑	十日市場	南 智子	2年	国語
19	緑	三保	西岡 大輔	児童指導専任	
20	緑	山下みどり台	杉崎 有平	児童指導専任	理科
21	鶴見	末吉	福田 博章	6年	社会
22	鶴見	寺尾	竹澤 昭郎	1年	体育
23	中	本牧南	北野 光彦		
24	中	本牧南	児山 徳幸		
25	都筑	川和東	佐野 幸彦	2年	体育
26	都筑	川和東	小串 智恵美	4年	社会
27	都筑	すみれが丘	江下 太樹	6年	理科
28	都筑	茅ヶ崎台	望月 勇太	5年	算数
29	都筑	都筑	糴木 睦美	4年	図工
30	港南	芹が谷	宇木 秀敏	6年	体育
31	港南	野庭すずかけ台	糟谷 信之	3年	理科
32	港南	日野第三	持田 洋	1年	生活
33	港南	日野	山部 征則	2年	生活
34	瀬谷	上瀬谷	大木 洋平	3年	国語
35	瀬谷	上瀬谷	輿水 洋	2年	図工
36	瀬谷	瀬谷	大野 真司	1年	体育
37	瀬谷	瀬谷さくら	諏訪 浩	3年	算数
38	瀬谷	大門	久松 篤	1年	生活
39	瀬谷	阿久和	勝村 佑輔	児童指導専任	社会
40	保土ヶ谷	瀬戸ヶ谷	福井 雅樹	6年	社会

41	保土ヶ谷	常盤台	東森 清仁	2年	国語
42	保土ヶ谷	初音ヶ丘	小野 幹雄	5年	理科
43	保土ヶ谷	峯	中森 毅生	5年	理科
44	保土ヶ谷	仏向	長崎 伸也	個別	体育
45	保土ヶ谷	笹山	山下 昭文	個別	算数
46	保土ヶ谷	坂本	富内 渉	6年	算数
47	神奈川	菅田	東 陽子	1年	生活
48	神奈川	西寺尾第二	武田 旬	6年	理科
49	神奈川	羽沢	鳥井 裕子	6年	算数
50	神奈川	羽沢	大崎 透	1年	算数
51	南	永田台	中藪 直人	4年	体育
52	南	大岡	竹川 元太郎	個別	理科
53	南	永田	佐藤 雅樹	5年	理科
54	泉	岡津	原田 泰資	6年	体育
55	泉	上飯田	村上 航太	個別	体育
56	泉	葛野	藤原 智	個別	体育
57	泉	中和田	宮野 愛	5年	理科
58	泉	東中田	峠坂 枝里子	児童指導専任	算数
59	泉	中田	大江 恭貴	1年	社会
60	旭	二俣川	糟谷 麻衣子		
61	旭	都岡	村田 親俊	3年	
62	旭	今宿	入野 雄大	2年	
63	旭	川井	秀徳 能尚	6年	
64	旭	若葉台	富田 剛史	6年	
65	青葉	荏田西	平 裕充	6年	理科
66	青葉	谷本	渡井 淳太	5年	体育
67	青葉	谷本	須永 昌男	4年	社会
68	青葉	嶮山	服部 学	6年	体育
69	青葉	みたけ台	今泉 裕明	個別	理科
70	栄	千秀	丹野 一郎	6年	
71	栄	上郷	岩田 哲生	5年	体育
72	磯子	浜	山口 浩樹	4年	社会
73	戸塚	東戸塚	矢内 遥平	5年	社会
74	戸塚	品濃	海邊 浩明	5年	理科
75	戸塚	品濃	幡野 司	5年	算数
76	戸塚	名瀬	松下 秀高	3年	社会
77	戸塚	戸塚	市川 和弘	6年	社会
78	戸塚	戸塚	山下 知絵子	2年	音楽
79	戸塚	舞岡	齋藤 引幸	3年	
80	西	戸部	羽田野 雄一		
81	西	稻荷台	藤井 健太		
82	西	宮谷	渡辺 裕子		

# 区部長名簿

(24年5月19日現在)

区	部長	学校	電話番号
泉	原田 泰資	岡津	811-4104
鶴見	竹澤 昭郎	寺尾	581-7084
南	中藪 直人	永田台	714-4277
栄	丹野 一郎	千秀	851-6950
保土ヶ谷	東森 清仁	常盤台	331-4808
瀬谷	大木 洋平	上瀬谷	301-0097
港北	田中 浩二	小机	472-8591
都筑	藤田 君夫	山田	592-3615
中	柴田 順幸	大鳥	621-7700
港南	宇木 秀敏	芹が谷	822-4568
緑	倉井 敬文	長津田	981-0155
旭	富田 剛史	若葉台	921-5245
磯子	遠藤 理恵	屏風浦	761-2001
青葉	服部 学	嶮山	902-7161
神奈川	鳥井 裕子	羽沢	383-1909
金沢	遠藤 義臣	釜利谷西	784-0921
戸塚	矢内 遥平	東戸塚	871-1055
西	羽田野 雄一	戸部	231-4515

## あとがき

### 教育メディアと共に開く豊かな学びを求めて

上記テーマを設定し、様々な実践を通して研究に取り組んできましたが、ここに今年度の研究の成果をまとめることができました。

子どもたち一人ひとりの情報活用能力を高めることを目指して、本研究会会員の諸先生方が、それぞれの視点・観点から多様な方法でアプローチした結果、十分な成果をあげることができたのではないかと思います。

紙面の都合上、一年間の研究の成果のすべてを掲げることにはできなかつたと思いますが、この冊子を今後の教育実践に活かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、ご指導くださいました諸先生方、研究推進に当たってくださいました幹事の先生方、授業を提供してくださった先生方、本研究紀要に執筆してくださった先生方に深く感謝申し上げます。

平成25年3月吉日

横浜市立常盤台小学校

東森 清仁

#### 【紀要広報委員会】

- 委員長 秀徳 能尚 (旭区・川井小)
- 副委員長 東森 清仁 (保土ヶ谷区・常盤台小)